役者評判記

チ13
3849
96

天保
甲午

役者三世相 上

天保五年
元治元年
本
成

特
子13
3849
96

子多10
136
172

チ 13

96

後若三世相

永大坂に巻見保

一陽来復の恵を得さいはも
うらぬ都頼見の旅を取分
今後は南北共に何里歩め大入
大當揃と浪花帰り咲當
うらぬ芝居崔の初意咲べ
猪様者と町も廓も待とな
どふもうふも成ぬそもあし
と成弱点素迷うは大そゞ

慕府定

一番刃迄ざ手付歳の御目刃江
一三陸ち頭刃世の大繁昌社附の
口上建板小○水性貝ス貝連中九
進物板もち稀上ち新乃○水性
芝居側の大桃燈ス場中七
賑ス桃燈の○火性接数も
上場も隅く迄人のかゝ
入中ゝ土間の○土性新刃世
大入大盛りふゝ須弥山程
積なのげゝ花入ち○金性

系大坂大芝居熱後者貝源
系四條小例芝居名代早雲長者夫
同南例芝居名代布袋恵梅ゝ恵
大坂名代姫角の芝居名代大坂ち大黒
○刃ち三ち三ち相貝ち拝ゝよる方のごし
△江戸ゝち南的徒又淡路行の新でのり邦

▲数 芝居 江戸
太上上吉 中村富十郎 角の元
お名ゝち呼ゝもるん 須弥山
老切上上吉 ▲芝居 沢後見
稀人 お迷者ち ゝいもるめ 月刃ち人
▲ち役ゝ郎
次上上吉 嵐寛 嵐寛ゝ ゝとめゝかる 歳徳神
切上上吉 中山文七 門性
首ゝゝんとかゝめ 六十七号
上上吉 小川喜代郎 △

上上吉　ゆく一下通りようけてハ口神社長
　　五段のさわ沢事ハ　市川助十郎　ゆくゆく年中繁
上上吉　中村歌七　南ノ社　塔の沢千
　　ゆくゆくうつくしめ
上上吉　尾上多見蔵　ゆくゆく　金神
　　めくり出ゆくゆくひらく
上上吉　嵐三又郎　ゆくゆく　弘王
　　糸屋ゆくゆくおゆと
上上吉　中山新九郎　△　狐憑
　　ゆくゆくお部のゆくへ
上上吉　市川亀蔵　南ゆく　流星
　　ゆくゆくゆくと
上上吉　嵐春三郎　ゆくゆく　星祭
　　仕うちゆくゆくと
上上吉　中村勝助　ゆくゆく　星祭
　　ぐんぐんゆくゆくと
上上吉　市川我當　南ゆく
　　ぐんぐんゆくゆくと宮ゆく

上上　中村歌十郎　南ゆく　氣
　　猶ゆく〳〵実も世ようよう
上上　中村仲助　ゆくゆく　上稼
　　世ようゆくゆくお名あと
上上　市川團九　ゆくゆく　後徒
　　数段ゆく〳〵五段ゆく
上上　中山吾左郎　ゆくゆく　ゆくの方
　　ゆくゆくゆく〳〵ぶらんぶら
上上　嵐小七　ゆくゆく　揚屋
　　百義実の沢つゆくゆくゆく
上上　嵐猿又郎　ゆくゆく　長郎部
　　ゆく〳〵ゆくゆくゆくゆくお名のゆく
上上　中村志賀十郎　南ゆく　井筒屋
　　ぐんぐん踊出ゆくゆくゆくゆくゆく
上上　尾上多見蔵　ゆくゆく　浜切日
　　世ようゆくゆくゆくゆくゆく五段の部
上上　尾上多見蔵　ゆくゆく
　　師匠と仕てゆくゆくゆくゆく

上上

中村清次郎　角定
實川八百蔵　口定
實川新車　八郎

行末なを考さしる

上　中村宗次郎
上　實川行蔵　口
上　實川清蔵　口
上　中村狸六　口
上　尾上多賀蔵　口
上　中村新蔵　口
上　市川徒蔵　口
上　濱尾琴之丞　口
上　市川郎之丞　南
上　中村多賀丞　口
上　嵐吽之丞　口
上　濱尾源六　口
上　市川鯉蔵　口
上　中村嵐蔵　口

上　濱尾為蔵　也
上　中村宗十郎　口
上　中村橋六　口
上　嵐吉蔵　口
上　市川河蔵　口
上　中村登蔵　口
上　尾上菊蔵　口
上　嵐亀蔵　口
上　坂東紀之丞　口
上　中村かが蔵　口
上　嵐寿蔵　口
上　あら手為蔵　口
上　市川郎之丞　也
上　市川清蔵　口

上上

中村清蔵　口
中村橋蔵　口

上　中村徒蔵　南定
上　嵐吽蔵　口
上　坂東三蔵　南
上　實川額十郎　角定
上　武道ちう和ようくる　聚蔵
上　▲立　後　後　見
上　嵐寿蔵　△
上　実ゆの方へ行方へでも　橋弥
上　▲實盛敵後ゝ郎
上　坂東三蔵　南
上　ちゝいゆり出そとひどん　辻蔵
上　濱尾為十郎　口定
上　おりゝとびかさうゝい　雷
上　濱尾為蔵　口定
上　実盛の行方へゝ多ゝ　坂蔵

上上

上　中村清蔵　口
上　中村橋蔵　口
上　嵐吽蔵　口
上　坂東三蔵　南
上　實川額十郎　角定
上　武道ちう和ようくる　聚蔵
上　▲立　後　後　見
上　嵐寿蔵　△
上　実ゆの方へ行方へでも　橋弥
上　▲實盛敵後ゝ郎
上　坂東三蔵　南
上　ちゝいゆり出そとひどん　辻蔵
上　濱尾為十郎　口定
上　おりゝとびかさうゝい　雷
上　濱尾為蔵　口定
上　実盛の行方へゝ多ゝ　坂蔵

上上吉　板東國又郎　かづの
五段まきあられていまはふさぐ
上上吉　中村東藏　角左
うるはしきでおやとこぐ　厄神　南ぐ
上上吉　三枡松又郎　南ぐ
くくきがめくくられかとこたくみ
上上吉　板東七又郎　かづの
ものくるに入さきとられ七八九西場　ところんのうら
上上吉　中村鶴寿郎　角左
宝の弾義又郎　うせのこうこう　長崎左
上上　板東安左ヱ門　かづの
五段まあまきまれてしまいい　五乳
上上　市川新四郎　南ぐ
ものたられてメとうとと　鳥昭左
上上　板東大八　かづの
市川はり藏　口左
勢松動八　口左
義鉄壁大蔵　口左

上上吉　中村答助角
上上　中村長藏　口
上上　中村仲蔵　口
上上　中村雙蔵　口
上上　中村弱助　口
上上　中村安蔵　口
上上　市川源蔵　口
上上　嵐璃藏　口
上上　小川河藏　口
上上　中村鶴藏　口
上上　中村菊蔵　口
上上　濱尾國次郎　角左
ふくのしゅうはちよう　相郎
巻油
上上吉　大谷安蔵　口左
ロヤ　ちゃうはんしょう　田強
上上吉　濱尾國次郎　口左
楽後とくはちの八卦　一代八卦
上上吉　市川宗十郎　南ぐ
ものくるとくとくとく

実悪
上上上上
巻軸

[illegible]

上上上上 市川鍵之郎 南北 [illegible]
上上上上 濱尾與六 南ゝ八 [illegible]
上上上上 ▲道外義東形ヽ郎
上上上上 中村友三 南ゝ八 [illegible]
上上上上 沢村長三郎 ゆゝ八 [illegible]
上上上上 住吉ちゝ八 [illegible]
上上上上 [illegible]上徳三郎 ゆ月 [illegible]
上上上上 沢村勘郎 [illegible]
上上上上 中村梅義 南北 [illegible]
上上上上 ▲若女形ゝ郎
上上上上 岩井紫若 南ゝ八 [illegible]
上上上上 [illegible]
上上上上 嵐加の[illegible] 南北 [illegible]
上上上上 [illegible]

上上上上 嵐猿光 △ [illegible]
上上上上 中山南枝 △ [illegible]
上上上上 嵐徳三郎 ゆゝ八 [illegible]
上上上上 中村梅義 南北 [illegible]
上上上上 中村歌女 △ [illegible]
上上上上 中村歌門 南北 [illegible]
上上上上 嵐三右衛門 △
上上上上 坂東彦三郎 ゆゝ八 [illegible]
上上上上 中山文七 南北
上上上上 荻野八重弥 南ゝ八 [illegible]

上上

中村奇縁老　△
中村楊弓助　角丸中
中村松助　口丸
嵐咲弥助　ゆがび
坂東彦三郎　口丸

上上

嵐川友三助　あぐび
実川八百三　角丸
山下雀好　口丸
尾上梅朝　あぐび
沢村國三郎　口丸
沢村浪三郎　口丸

上上

沢村宗十郎　あぐび
嵐楊弓郎　ゆがび
市川松弥助　口丸
市川門之郎　口丸
中村歩き松　角丸

上上

中村松代　角　上　中村歌三郎　角
上　中村歩き助　口　上　尾上菊五郎　口
上上吉　泉川勇次郎　角丸
のべでもお姿はきれい　織女
上上吉　沢村友吉　△
至上上吉　沢村國吉郎　角丸
御あんもいきもどれば用法
至上上吉　中村歌六　あぐび
義の仕やうはもとのまま永性
△角鬚嬢形子役で郎
中村玉三助　角丸
市川宗次郎　ゆがび
尾上寿雲　角丸
中村楊松　口丸
市川鯉三郎　口丸
坂東蔦三郎　ゆがび
嵐川八蔵　あぐび
中村りん　口丸

上上

上 中村弱く勝 角
上 中村三郎勝 口
上 中村弥松 口
上 中村弱く 口
上 中林谷勝 口
上 宍川市松 口
上 宍川政吉 口
上 中村谷勝 口

上 濱尾樋之勝 市ゞ
上 市川勝三郎 口
上 濱尾濱吉郎 口
上 濱尾樋く勝 小ゞ
上 尾上橋彦 市ゞ
上 中村嵐勝 口
上 沢村樋之郎 口
上 坂東谷平 口
上 中村元之勝 口
上 嵐橋彦小
上 嵐橋く矢口
上 嵐亀三郎 口
上 市川述人 口
上 坂東八平次 口
上 坂東市代吉 口
上 坂東栄吉 口
上 坂東市五郎吉 口

上 中村橋吉 口
上 濱尾弱市 口
上 中村弱吉 口
上 中村橋彦 口
上 嵐彦吉 口
上 中村橋吉 口
上 濱尾市彦 口
上 長川友市 口
上 中村治吉 口
上 中村千之勝 口
上 中村吉吉 口
上 中村吉く矢 口
上 中村安代 口
上 中村橋彦 市ゞ
上 嵐彦郎之郎 市ゞ
上 市川彦吉 口
上 市川濱彦 口

上 嵐彦く矢小
上 嵐三く矢 口
上 嵐三吉 口
上 嵐市吉 口
上 市川市三吉 口
上 中村橋彦 口
上 市川橋松 口
上 中村之く矢 口
上 市川徳く矢 口
上 中村吉く矢 口
上 嵐吉く矢 口
上 坂東谷平 口
上 中山彦之郎 口
上 市川文く矢 口
上 尾上橋吉 口
上 中村辰く矢 口
上 中村吉吉 口
上 中村吉谷 口

▲頭取こし郡

坂東國分郡　小ぐち
宍川新平　まつかい
千代尾長之丞　南九
[illegible]郎源義　△
朝の谷權十郎　△

大学氏▲　鼓巻　角九
次上書　中村芝蘭　やまのやつめ
行彼方も自在の如き雲霧

古今▲　鼓後　見
惣巻頭　中村歌右衛門　角九
役者一通りとりまぜる四番の型
番頭

▲雛子こし郡

小例　産

一張　湖出巻表　一反　坂東敏三郎
一口　中村久次郎　一疋　小川喜三郎
一口　行如喜義　一張　芳村孫治
一口　湖出文治　一口　湖出喜太郎

一口　玲太兎義　一三張　芳士四郎次
一三張　杵屋新右衛　一口　杵屋喜太郎
一口　杵屋長之助　一張　行平三郎安
一口　芳村弥三郎　一口　行平源安
一口　田中伊次郎　一疋　猪沢喜太郎
一口　坂東源次郎　一口　猪沢郎右
一疋　小川源治　一帳　山村長斗
一口　田川長之助　一疋　坂東義平
一疋　田中伊次郎　一疋　中村伊八
一口　田中表之丞

産

一張　湖出市三郎　一反　西川松治郎
一口　湖中力太郎　一疋　小川七三郎
一口　湖中喜七　一口　小川熊三郎
一口　湖出栄三郎　一張　湖出市之郎
一口　田川伊次郎　一疋　松浦徳義
一口　湖出文治　一疋　中村長蔵義
一三張　芳村橋六　一張　行平彦の丞

三張 芳村弥三郎
一門 中村新六
一門 飯出佐衣
一門 中村長右衛門
一丈 田中藤衣
一歩 福原竹蔵

角の

一丈 田中長蔵
一張 安吉長蔵
一門 中村宇七
一門 安吉西佐蔵
一門 中村東治
三張 中村新三郎
一門 坂東磯衣
一門 岩淵吉衣
一門 中村長三郎
一門 長柄徳右衛門
一丈 中村定蔵

一張 老竹亦代吉
一門 竹本市之丞
一張 亀沢英男
一門 猪沢伊三衣
一門 猪沢久蔵

角の

一丈 中村熊衣
一歩 小川猪蔵
一門 小川久衣
一歩 小川宝治郎
一丈 岩淵久蔵衣
一門 小川伝蔵
一門 岩淵市郎
一張 中村文衣
一門 安商藤蔵
一門 安高市郎
一門 藤塚文蔵

三張 長柄又十郎
一門 中村新六
一門 長柄猪蔵
一門 中村新衣
一門上 市村孝衣
一門 山村吾斗

一張 竹本武吉
一門 竹本三郎吉
一門 飯沢又吉郎
一門 猪沢吉衣
一丈 市村竹八

▲ 鉢衣 鉢者ゝ部 添削

角

金澤龍玉
金沢金助
金沢銀助
八幡箭助
金沢美女
京河京助
金沢玉女
弱 賞助
京河勝助
京河銀助
西澤一風

の

産

北側　近松義浦
　　岡　鴻義
　　近松齋造
　　近松桂樹

座　京河葉助
　　柳市良親

南側　京河一泉

座　京河勝助
　　榜　慶助
　　京河十四女
　　京河新平
　　京河慶女
　　並木宗造
　　京河鶴助
　　京河泉助

一寸ばかりでゆかりの者
俗名　河岡三十郎
ばかりの人は加名芳沢然るべきと中ごろ後
中村市蔵十郎と改名の関より
道とをくの横町の上ゑくまで
一ばんの角坂殺され大ぜいおのづから
出来ゆきさまは所ふ斗去秋死去いる
されゆきさは弥会の係でゆかり外

俗名　尾上柳枝
俗名　市川鶴又郎

右の女人ともゆかりの者ども
ゆかりの中ゆかりの者ども
居てゆかりの上ゆかりの者
えうしびもの女人ともゆかりの者
いさまれゆきさまのおかたは
加藤いつまもまるも一ばんの
うゑ　ゆかりの上ゆかりの

光輝ける

西頭見世角の芝居中村芝翫実
上坂延引と付神も除く延引四文
狂言の藝評此度の百合子は
文右衛門衆と別して評いて中せば
それ丈は除きまして別に
すまする

評判所　頭取

見通しの法師が

後藤一文字の仮樋伝授

年間五秀の時あり三十日の急も
麻上やと生でうへう初日の出張番
ちらつも文右衛門の浦の素ぐさ
浦人町で考る実西が元祖法
世人実は生西の通ふ見通法師と
いふ伝あり同所境内表言城乃弘

勝りゆく出張所とは中村人和家相
手の節は古ひ日くの船長間元祖法下
が出て居ハ弘勝りゆえ往て西ると
組と祝ー宮の見得又八十二文義教
の判弘ホ孫の邪大流弘西人生と
乗くと等ー久るるれども法下樣
出て直近ハ所方は得ら長形先竈
払ひは生るがいづまてもは節ち
法文の言率と生の言人等斗ゆく
別して竈まるれお者所のさー等々
其家の山の神が見れば見角
内後の氣れが見て法下もそ浦
こて仕長人西の紙の樋根糸なて八
先達公より西がる紙は長号文角月
くユ文のお紙と樋人るが遅くく文

源氏も引うつり法師もいろく
樊噲く飯くらべの樊噲うどく
陳宮生うて侍按もれば旦那の海
内飯色皆一統に脱びるるを打笑
傍の内さき彩按ひとり寄るが内の
辛さを後かうて見ずしを後悲うて
いまゞ第崇るれども文芸拙で
の道去様法師ハそうひとあやかも
も同じく飯樊侍按さるぬぐと教へ
くるが面かうてハチトは義会でござる
が我ホエまの大根めーがけーうーぬ
味ゆでざると舌ひて笑よて坊うるる
ゞ狂ふく無釈不迷カ大根めーを
樊噲く喰さんとヤクれば行つうひの
男げヤ拙おかさん第旦那さまお飯

ハチトおゆうしでござうまたとの人べ身
ゆもむりと釈無釈ハ拙と急行でけ
お飯と時ゆのゞや坊ホ出く義春
ぐいろく粉と喰ハ人物こ笑ろこも
和ともるれ和尊ともるれ坊ハ仏行
飯と喰さとて邪ゆのハ
るれと妻ほうホ樊噲く喰うれば
芝ハ味ひと思ふう余芝喰無若
人形ハ月も性飯樊噲やされとひ
もおうに性るう家ゆ法師ゞ会ハ
ゆもる人店出ずう將角の芝若
の妻迎ゆ人ホ紀まーこゞさもく
今芝就とゆ殺者の人釈のよハ
さの強い芝致のたる彼若でゆう弁
生人川筋の雑ひ人物の紀むひの

紅涙例の焼物天神祭りのもわよ
べぬうひ芝居の図は勿論面白い筋
元も五郎様の人形集やはやり
うぶぬ作りのひでうまいこと人の
物ひとりてい中く芝の三郎兵衛
さんとうへませぬ此の物ひで
茶がゞ円とさゞ円さゝやうでゞ外
嘩の実うは物ゞ生れるもの村
といふ生所うゝ茶きをあり
二郎くうみく実はひでゞ外うう
付ことやうのうるとめまう安へや
ゝうませぬうそれでは月の八十
よて正保よ寅七十六文よちち
付ませぬがうゝ遠ひう物い私ゞ
ごとのひう物ゞ生せぬと世ゞ法下

大りうひ多遠ひたく大らゞはれい
半公様のお宮の遠ひゞう外今度
中村芝居ゞ江戸きう角の芝居の
御見ゝ小所ゞと仕中ゞ芝居
弱り芝居外ゞあり外このゞゞう外
それと付長の四ゞ芝居
付ことゞうはう中ゝは手者の役ゞ芝居
ゞいうませぬと四ゞ芝人ゞう私い
ひう年ゞう外番組とゞ絵ゞ下ゝう
中せと物ゞうゞ法下ゝ猿ゞ芝居
面ゞ年ゝ三十八ゞゞゞう中ゝ並外ゞ
て信とゝ芝ゝ国ゞ面ゞて芝居ゞ
ゞう中ゝ人ゞとゞ新の絵ゞめうてゞる
芝居ゞ年ゝ年ゝ芝ゝ高ゞ人ゞ猿ゞ物
とゞ物ゞうゞゞゞゝ外中せぬと猿

のくらゆえんは
りるものどもれば今
がよみうれ三間ばかり
ものがうあくさんが井方角を西
向とも除るされ
子ゝうでもり井
私の遊乳は源ごが生まれの遊
乳いどもでもり井さされいでもり井
下員のおのでい私も巣ゝ家
るゝゝゝ居給ゝうあごゝ
ごがりゝゝ老ごんとえすごりゝ
ゆゝうゝゝそよ南ひのるゝゝ
結ゝ持れゝゝ実ゝ巣ゝ
るでゝゝれんば書ゝ
すゝゝ序ごゝも

建物持塀の勢人大ゝ編ばゝ生せ
ばゝゝ大体あゝゝゝゝ人形ゝゝ
ゝゝゝゝ表ゝでゝゝ四本でゝゝ
ゝゝゝ表ゝでゝゝゝゝゝゝ
所のあゝ大ゝゝゝゝゝゝゝゝ
人ゝゝ人角ゝゝゝゝ後助ゝゝゝ
大ゝ木ゝ蔵ゝゝゝゝゝゝ
庫ゝでゝゝ井ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ技ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ井ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ勝ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
寺ゝ大ゝゝゝゝゝゝゝゝ
塀の間ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

大仏殿にて大くんのう子ゑ十月ゝ三日
[illegible]たゝきゝ[illegible]ゝ紙ゝの姿とゝゝ[illegible]
方ようゝ人ゝ出たゝゝりまゝこゝ御同道
ゝゝ角の大くゝ[illegible]ゝ同時でゝごゝう
まゝこゝ[illegible]仕ゝゝ中ゝゝゝ
ゝゝ弁慶ゝ中ゝ[illegible]
十帰りゝて三のゝゝう[illegible]
[illegible]切ゝ湯ゝ春[illegible]
[illegible]ゝゝ[illegible]
ゝゝの彩[illegible]
大ゝゝ[illegible]
くゝと天ゝ西ゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]
一[illegible]ゝ角ゝ方ゝ[illegible]
[illegible]

と一切ゝて[illegible]
彩[illegible]くゝと[illegible]
大人ゝゝゝゝ切ゝ[illegible]
[illegible]三ゝ出ゝゝゝ
ゝ市ゝ宗十ゝ帰ゝ[illegible]
弥[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]の[illegible]
三十六ゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]
[illegible]
法ゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]
私ゝゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]

人ぎょうこう多でありみのがされいかざるさ
の極えんで後を弥めて花ようで後れ
後ようを弥花後がとありたわむれくあり
きょうこう文ぶんでえんようふとそうく
後こおりくのまうこうを花へ
花で住ようひょうこう夏ごいちの形の
と弥めてのまうこうをいとえとふ
迎ひて月の光の光金とあいこと
ひきょうこう多ぶが見えようこがぶたろう
形ようそれへ判ひとるる色のあるよう美で
みう科花べきうるぶとあるる恋とあう返
ゆうかりませぬもでも牛が屋根へ
ぶび上で為とうかることいふゆうかあ
ひかりひぶとえ多者へ青が形科を
美ゆゆかいりぬるやくえで金りう

情がえんだれうこうを美ぶりう
ほりでえてゆれとらでもひすべるりま
せぬうそ紙二るれば業人をう猪ゆう
央陣ゆ為ふ上ふ不ゆうこと三又
紙ほりあんべきく対の道をるり上ふ
あとえ宮めて先おざうさの宣徳
央陣一名ゆ二四の形後者で見ゆべ
先の光紙ゆ今の光紙一対とて一名
二部央陣ゆうう四へあんがあくか
高くけて八れあへた大ゆうくゆア
りゆそれゆうこので紙縁がう紙者
ゆうおませよ　天保　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
後ゆて三紙ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
おまこゆん側条の後者評判会
ふ宮紙ゆ今条学後ゆりう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元祖中村慶子賜稽

一初代中村芳沢のやめの実子ニ又ハ二代目芳沢あやめ同山下又ハ三代目芳沢あやめ同四代目芳沢あやめ之新吉郎方ニ養子成ル芳沢あやめ幼年ヨリ中村幸の助より大坂ニて張付の上ニ中村弟十郎ヶ分ヨリ養子ト為リ養父中村新吉郎ヨリ同十四酉年養父中村新吉郎江戸市村座へ下ル二付富十郎ヲ連て下リ三年ヶ間亀子ニ出ス同十六亥ノ年春市村座ニテ座ニ勤メ三年若九郎ヶ始リ同十七年子ノ冬京都方ニ座ス宝暦同廿卯年二月京都ニテ座ニ勤メ

上上ト九元文二巳年大坂岩井半四郎座ヘ下リ上上ト九同三年上上吉ト九同四未年二上上吉ト九宝暦保二巳年江戸ヨリ市川柏莚大西佐渡鴻長又郎座ニ出ル富十郎ハ市村座ヘ下ル道中ニテ出会行遠ニテ九此時上上吉ト九延享元子年ニ大坂中村十蔵座ヘ登リ吉ト一ツハ ノ座ル同二丑ノ春ハ吉ト云ヘ座ル宝延三巳年嵐三右ヱ門座ニテ 獅 上上吉ト九同二ノ稲ニ極上上吉ト九宝暦元未年京中村十蔵ニテ石橋之大当リ同二申年嵐三右ヱ門座同三酉年ハ江戸中村座ニ下リ

道成寺ヲ勧ル是始メヤリ大當り
ニテ出時ニ
咲ウラ残ハ残ル散ハ散ぬ山桜
自他ノ殺生ヲ自年ニテ看板
書イテ仕出アレタリ是又道成寺ノ大當
同九郎年二市村座ニテ脇ヲ芦屋
道満ニ為ノ密ノ子別ヲ大評判
ニテ大坂中山文七殺ス十年ブリニテ
上坂ニテ帰リ九月清ケ岬大切ニハ姫
道成寺ハ時ガ大坂始リ大當ニテ
至極上上吉ニ日昇進後ニ同十二年
ヨリ京江村岡左帝殺ス又ク
道成寺ノ大當リ ヨリ明和三
年迄京都出勤ニテ同四年春ノ
都見世ハ大坂中村歌右衛門殺ハル

ニテ帰リ陸玉川改岡ノ評よく数嫁
湯大當リ同又子年三桜他人殺ニ
テ浄ノ本ノ大出来同六丑年モ同
殺ニテ同七寅年ハ糸尾上豪胸
殺ハ登リ同夫々用明天皇陵入ヶ
脇ヲトシテ江ノ戸森田座下リ十
二年ブリノ事ナレバ特ニ大流
行ヨリ安永五申年マテ六ケ
年森田座ヲ勤メ同七酉年ハ中
村殺ハ出勤ニ年和田ノ板頭安
房重ノ弁大當リ同年十月九日ニ
子初ノ一ハ新吉帝二人ノ共同日ニ
死去ス殺ハ世ノ板事ト皆一
統ニ落涙殺ニ同八戌年ハ
市村殺ハ帰リ評判能ク三

七代西郷孝子勝元トシテ大坂南
の芝居小川芝太郎ガ十一年ブリニ
帰リ新参ニ成ル迄年月ハ大
ざつと三年ヨリ続イテ三ケ年勤メ
天明二寅年八月中山猪八郎ガ
出リ浮き く同卯年モ同様ニテ
二ノ番りけの世話霊験滝門ニテ勢姫
物今ノ所景清滝園ノ所板
屋勘兵衛と云役ニテ芝太郎ト
出合大関り大評判天明ハ辰春
名古屋ニおゆり今年で三年続
テおゆり成ドモヤハリ評判よく
ヨリ芝居ニ出ル芝太郎ガ姫宮ニ
さぶらいみつ文七ノ大判官ニ
大関ヨリ三ケ七月二六番ノ番

出例ニテ友綱番切ハ石橋大八ノ七
色ト勝色トシテ同五巳年ハ大坂角
の芝居座本尾上菊五郎ガ
頭分無性者ニ成ル弥金平嬢大當
ル番リ三十一月廿八日ヨリ芝居ガ出
ナシテ芝居ハ絹ト多代ノ二役金人
の為ぶ所をめくらぶ所ト評判ヨリ
桜屋ガ出ル迄ハ入場ニテ番リ
性者のお孝ハ三ケ月ヨリ初ての真
孝色紙ニ屋ガ出ル
引ヨリ大八ニテ西ガ出ル
出孫時彩紙四ツ切ト付二階堂
門義ガ出ル
源氏義門二八義家ノ寺ニ三ケ番
白ケ二富ケ番代ノ所ノ所ガ付ト

中ゟ〳〵弥勝の大入ト成リ二月一ゟ
の大入三月初日二日ト続キ三日ヨリ
下地の狂言千歳三ツ〻出入濟
安治川新町橋の場落合や四場
付八木孫ゟ国義ゟ四三七ゟ
えんど物ニ社ゟ出ゟ弟ゟ三八
義ゟ弟八三三ゟ弟清川ゟいろは
如ノ小ゟん三富ゟ弟ゟも評ゟく迄
ゟ四日ゟ十四日ゟ奥形ゟ出ゟ
ゟ三ツ替リ看板ゟ頭殿下一
嬬西國物語ゟ原ゟ初日ノ形同
廿三日ゟ成ゟ弟ゟヨリ出ゟ三ツ迄
ゟ狂言ゟ式一ゟ安ゟ桃ゟく
兵庫ゟ千ゟ後七ゟ下ゟ大酒
新ゟ花ゟ二ゟ安ゟ房ゟ奥形ゟ三ゟ

退ゟ後ゟ兵ゟあゟ三ゟ日ゟ切ト
噂ゟ伴ゟ式ゟ新ゟゟの祝ゟ
三日ゟ新ゟ世富ゟ弟三ゟ義ゟと
勤ゟ弟ゟ大国義ゟ義ゟ三ゟの出
合ゟひゟでゟ三ゟ十七ゟ
濱ゟ素ゟ三ゟ縄ゟ成ゟ
八一流ゟ弱ゟ入ゟ迄ゟ
でゟ弁ゟ切ゟ張ゟ松ゟ出ゟ七ゟ
三ゟ女ゟ三ゟ弁ゟ新ゟ女ゟ
ゟ新ゟ形ゟ〳〵ゟ月ゟ水ゟ
四ゟ年ゟ同ゟ社ゟお勤ゟ三ゟ
ゟ月ゟ長ゟ大新ゟ世南富恵方
祝頭ゟ世三月ゟ三ゟ体ゟ紙ゟ退迄
ゟ付ゟ安ゟ形新ゟ〳〵ゟ出ゟ
ゟ十二月ゟ三ゟ十月ゟ間ゟ形ゟ

一度戻り二ツ稲荷ノ社ニ詣り箱伏ノ社ニ詣
十二月十八日ノ夕方ニテ二月十八日ノ
夜ノ明ケ方ニ西ノ新九郎ニヤ御伺ヒ
一度ニ参詣ニ参ル引続キ例ノ通リ
右三ツ社ニ参詣ヲ済ケ夜ノ稲荷ヨリ
外類ヲ稲切ニ出ル清水ニテ夜ノ夜明
ケ狂言ノ浪花ノ名物ト成テ後ハ
ハ病気ニテ引籠リ後六月三日ニ
明年六十八歳ニ初ト云テ黄泉ノ
旅路ニ赴キ申ス此ノ時ニ弥ニ的和
八年二巳類ト称ス安永八年ハ
大至極上吉ト云リ同九年ニ今年ノ
稀有天明四辰年ヨリ秋葬儀一通
為義ニ成ル亜ノ八禄ニ成今ノ稀ノ後
者ノ方ノ社神ノ同前勤ムベシ

実ハ三三九度安政酒ノ名ヲ変ジ
ハ以ヨリ巻テ外見出多ク

恵巻頭

大上上吉　中村富士郎　角社

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と孔孫さんとうの無法後孔子とのり
そ名振又八月の代義孔子達する
五兵の力孔子三の異利とのり孔子
名振お後孔子の孫子孔子も孔
子のごとく始ぬ孔子門弟
よりの名振はこの子義孝後
云く【段】義のまこと子孔子二番
根更閑の義孝ゆうの子ぶんの
おうぶ後孔子の子のお勧めやるべく後
又右の安孝と孔子のもうもうまこと
二後こうり【場】秋子のこうこと
琴さしんじさうの孔子一番孔子
こと切ものこと一番孔子
更お嬢小者の後孔子のおくよ
のまこと孔子孝の勧めこうのと

きこと【セリフ】ほうこの帝後孔子出会
義孝の孔子義孝とこと孔子ほうり
きこと後孔子義孝の子孝の更孔
入きこうこうり孔の後孔子のおく
よりぐく【ヨリ】【段】岩本やの別荘孔子
孔帝と出合いぐく孔子義孝とこと孔
孔子の後孔子義孝【上所】後孔子義
孔子義孝の子義孝の孔子義孝の
で大和屋の子義孝後孔子義孝の
孔子義孝の子義孝【段】二の後孔子
孔子後孔子義孝おり孔子義孝
孔子後孔子義孝の孔子義孝
お勧孔子義孝孔子義孝孔子義孝
義孝の孔子義孝後孔子義孝
義孝の孔子義孝【上】【東】孔子義孝

祇園会御九重錦
花扇錦再競
伊賀越道中双六
義経千本桜
東鑑御将軍
お染久松恋女房

の後のちのちまで人民大勢の安全誠
をもとのうれひなくしてのがれる大ごとく 関
二度かみへ注進して小川安のこと
との安全がそこのいたずらよりたすけ
るかりとのひとつのでよりほとんど 関
ほかりかりの行屋さ仕方者の家
十ずもこんのわるとそひまとこと弟
く 関 後程家老の長一のうの秘伝小兵衛
角の家長一のうの秘伝小兵衛
別ちて神刀がよりまりこと初と
て角の後へかやり国性爺小むし役
ゆか 播州安のこの長仕方かなと
いとおだやかあること別れの形るの
ことなくなく 関 二度ともんしゅう安
おれるまのそのこのこれかの家の

三

ものかのれど横門の私の後安
とおもへたのれどもの家近ひとの
へおもてかりどもくひろけてそこの見
ものなりのなかのこのかの家
ことのなかのこのかの家
なりのもの安のかの家
なとかりのこと 関 三のの女流
なのでなおりのこと後近
かのなかのこの後後このの
ものなのこのこのこ
国性爺こと
ものこの神刀のこの
決へのかの
かの後国の
なとの後へのの
なとの後へのの

三

▲巻頭後見

古今稀人
老功上書 ㊀ 片岡松為

[図] 繁世無ゆん松為の作を
人れ[illegible]ぞ[illegible]出動でそ[illegible]
春の角の芝居[illegible]
[illegible]
二度出の川[illegible]
けい世の[illegible]川に[illegible]
せ[illegible]
かけれど[illegible]
大でさく

[図] 芝居[illegible]
[illegible]
[illegible]

養子秋月文七郎遠下の実へか
りたてうまつ[下モ]役方でも取
扱ひあるべき筈の所に九郎へもうし
長崎へ引越させ[ル]ものの[ハ]
に相向でこざるべく[ハ]両役でこざる
べ[キ]こと[ハ]九郎[ハ]浦の実家勤
ゆう浪河若ゆ[ハ]切腹を
男浦の見夜女三役[ハ]九郎切
腹れも[ハ]ゆ[ハ]でこざるべ[キ]こと[ハ]長
くもこと[ハ]上[ハ]若殿[ハ]切腹を
ゆ役の義他[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]
義へ面側へ[ハ]上家[ハ]ゆ[ハ]
ゆ[ハ]弥ゆ役[ハ]皆くりもひ
流ゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]
かゆ[ハ]ゆ[ハ]義[ハ]ゆ[ハ]

て仕おにゆ者ゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]
[ハ]東[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]
にゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]
で世代ゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]
義へいかゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]
奉義の役ゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]
稀人でゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]
にゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]
又他ゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]
にゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]
でこざる[ヒイキ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]
出勤ゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]
ゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]ゆ[ハ]

立役者代
大上吉

▲立役うく部

資隆寛 小例

相ひ[illegible]のいるものがら者く様がる
かの行者者者付かけれぬ[illegible]るのう
ぬ[illegible]の[illegible]ようの男[illegible]
でうもあと 大ぜい 行者[illegible]ん[illegible]かうが
体そこそこに[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]紙[illegible]師[illegible]七[illegible]
と[illegible]
[illegible]後[illegible]
切メ 者付こん[illegible]後[illegible]
いて[illegible]
いつでる世話切[illegible]
[illegible]
ひ[illegible]
[illegible]

切メ すり上[illegible]
後切[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上町 初牡丹花深川に咲や彩色流
れ後れがうめの後い引後のお祭
淀ノ上ト嶋なる事ぬ さる 七るや茶
がうるの夏ぐやわら 図 赤西くわ
牡丹の咲りは牡丹花は遅ひ文芸者
かぐそでの供が交ら後られもとの文
傳宗兵衛丸ぬ丸ハ子とうかるの
ぐさう牡丹の咲のめ文ぐのんぐん
でうまり 秋人 を後ハ先傳宗い
めかんぐめさ兵人の文ぬ京の牡丹
かぐそうり色ぬ月先を新ら一ふ七
月文ら日まりうを近名人逢ら後
されんのそ秋ぬ牡ぐ新ぬさをこ西
後か月のめ文ぬんとのれれもれ
ぐぐぐうを 図 文尽ようの月の

芝居ようの国性爺に和藤内やく
ぐ恰見物かうふうまぬ 文七郎
ひ後ハト仕種のかの人目かいむ川
りの後でぐうまもかりもえうを
そ仕新ハ大ぬにかう牡丹下ぐで
ハトれまぬ三ぬたひ牡ぐう
と月出来てんぐさへがうまりさ
たぐ三 芝居 文人金に文七やく
第の物を赤九郎後物五文との
出合ひ物とたのんでのまりさぐ五
ぬりもトゆうふを牡に文ひを
文ぐかれまの後れハ新かう
ハうりまぬ文ぐ三 図 七月ようう
わ側をまり国性爺と和藤内後
貝ぐ教後ようぬ牡別文が

[上京] ひろ門るもうかく
[三河ノ国流] 南ハ三河勢ひとく
ゆんもうの信濃ハ国境あり
角ねをたて城ぐちこのうれをかく
志ての勢ひまく切近ヤ今かく大軍
く [下京] 極楽寺ハ三河ノ国ノ境ニ後
うかの陣ハかわ今ハ今ハけれどとく
耳が迫へるめでた合ぐうふうりさ
信井の陣もうんかとへおれまぬ
先の敵の方ぐうふうくとやりさ [敵大]
智り社ハ国ノ本也ニ市正ハ三ヘく
先陣ハ家ニて入ニ入ニ入ニ月数迫
奇ニて体かわ後りさ切山城ニ
金財後ハ法ニうもの兵ぐ系
物ハ人ハ人ハ人ハ人ハ人ハ人ハ

物合く [敵] 九月ノ中の後ハ
先陣ハ三国志程ハ尾ハ張に
親西八郎ハ朝後大将ハ今ハ
三河国ハ入ハ入ハ入ハ入ハ
ハ三河国志国ハ敵 [西ハ] むこ入の
ハ三のハの中ハ
ハ今ハ今ハ
程ハ今ハ今ハ
[セノベ] 流陣国の頃ハ
ハ今ハ堂ハ
武者ハ今ハ
ハ今ハ市国の
ハの頃の
ハ今ハ
ハ今ハ

[illegible]

行会〻 [illegible] 一行の [illegible] 牡[illegible]して九[illegible]

年[illegible]文政[illegible]年辰[illegible]生[illegible]宮人交

ゞ武蔵で伝[illegible]さ附[illegible]へて牡[illegible]

うつて此の彩[illegible]へゞ [illegible] 切牡

[illegible]大強師に[illegible]代[illegible]長[illegible]後先年

糸で[illegible]さ附[illegible]代[illegible]

こゞ武[illegible]人[illegible]ゞの[illegible]て[illegible]代と[illegible]

[illegible]へ[illegible]ゞ[illegible] 仕[illegible]たり[illegible]

大ゞ[illegible] 文ゞ[illegible]糸[illegible]例[illegible]

七日[illegible]へて追[illegible]牡[illegible]ゞ[illegible]

[illegible]の[illegible]文の[illegible]勤[illegible]へ

[illegible]及び[illegible]

[illegible]人の[illegible]合て大[illegible]

[illegible]附[illegible]名[illegible]

[illegible]ゞ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉 ㊇ 中山文七 ゆく

[図] 百姓なぞでもまことに[図]おろかなるべし

勤めでたい〳〵 [図] 長く雅思を凝めば

高く名を秋源に発す力を尽すべし三度

たのもしやめでたきまつりごとハ八月に行田を

長ぬそれ重帰に遊ぶ百生業

年を帰ぬ秋三度たのしみハ人間

廊を揚て万事に新見えあり

彩を重ね孫山海と橋の浮くゆ

ひろぶに行逢ふこと多くハ

[図] 百姓なぞでもまことに[図]おろかなるべし

上上吉 ㊈ 小川長左衛門 △

[図] 百姓なぞでもまことに[図]おろかなるべし

小川長左衛門 女房なぞ勤めもまことに

[図] 百姓なぞでもまことに[図]おろかなるべし

[図] 三月末に[図]百姓なぞでもまことに[図]おろかなるべし

[図] 百姓なぞでもまことに[図]おろかなるべし

[図] 百姓なぞでもまことに[図]おろかなるべし

[図] 百姓なぞでもまことに[図]おろかなるべし

[図] 百姓なぞでもまことに[図]おろかなるべし

[図] 百姓なぞでもまことに[図]おろかなるべし

[図] 百姓なぞでもまことに[図]おろかなるべし

[図] 百姓なぞでもまことに[図]おろかなるべし

[図] 百姓なぞでもまことに[図]おろかなるべし

一金沢山の種子二度に
[illegible]
[illegible]
[illegible]

上上吉　中村歌七　角屋

[図] 松嶋屋でゆりの[illegible]
[illegible]

[illegible]

上上吉 ㊀ 滝上家見絵 ㊁

[図] 尋羽根根ねでつりもとの春
ゝ設て角の種ゝよりのりさ [上吉] 吉
繁々の数数繁々るめるでつり
るめのゝ人ゝでつりもと [図] こちの
鳥あゝ人ゝでる羽根ねでる人ゝ出さ蟲
蟲さゝ [図] 蟲さゝ根ねさう鳥根
文成年ゝ蟲ゝの蟲根ねれりさ
見ひ更七ゝ蟲りさ蟲るりゝで
ゝこれ神殿ゝ中ゝもゝれ蟲ゝ中ゝ蟲
蟲れ神ゝ中ゝ中ゝ蟲ゝ中ゝ蟲ゝ中ゝ

羽根根ゝ羽根ゝ羽根ゝ羽根ゝ羽根ゝ羽根ゝ羽根ゝ羽根ゝ
ゝ小ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ [図] 東山別
蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
かのゝく [図] 清ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
で蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ
ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ蟲ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

過ぎて七月に入て八月
[長尋] 行田、忠勇の人、九重郷を
帝別殿の義士、この者三段切出
たいこ持ち三段めの足にて代書助
多無大和の二段目、孫助、商ひ手代
段小むつ、に在段、政侍遠方飛
のびれもやうやくわ、の社会ゆく人
あてるに人の義にハ三分の位、批判ハ
ゆ中なぬ [下七] ず批判ゆあ不ゆ
とうさんの力ハ男分ハ、ものわ
が金社ゆ文帝の方ゆ、ハてよろこび
ゆ [長尋] 東西、衣社会切て
ゆびくあの毎ゆ、ゆ、ろ九郎郷と [長尋] 本
ゆ段目の切手物の切りの段
の上ハ、うさんの社ゆ、ハ、ゆ

先ゆ、ゆ段ゆ、ゆ、ゆ引金大ゆ、
二段ゆみの右ゆ、ゆ社ゆ三ゆ
ゆ義ゆ、ゆ、ゆ [長尋] 切社会郷
給、続ゆ社、ゆ帝段ゆ、ゆ、ゆ
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ
切段ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ
ゆ、ゆ、ゆ [上来] ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ
二ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ
ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ
切追ゆ、ゆ、ゆ [上キ] ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ
く、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ
春ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ

上上上回 ㊐中山新九郎 △

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上 ㊀ 斤 名戦場 あづま

[図] 如名所川第前手後乱福寺

[図] 春行国名所人武蔵

[図] 秋吉文武蔵

[図] 冬行国名所人武蔵

千歳の役人なるべし

上上 ㊤ 中村伴助 角力

関 [illegible]

上上 ㊤ 中山[illegible]

関 [illegible]

上上 ㊤ 中村達[illegible]

関 [illegible]

上上 ㊤ 中村[illegible]

関 [illegible]

上上 ㊤ 中村[illegible]

関 [illegible]

万長ものとなりたる仕方の事
くわし 三の丞孫会の孫たる後
の川は落葉樹後さしたる
落葉川歩村の後落葉
本村こと
[illegible]会 [illegible]生後
[illegible]中村番[illegible]後
得也 [illegible]
[illegible]後
[illegible]会
[illegible]
[illegible]
[illegible]

▲立後後見
四上上書 桐 鼠来爰 △
図 一流系図の文かりの要多所
有之所上板之内重後の出勤望
ぞん移りくれもの出勤をまち
度之く

八文舎自笑
梅枝軒泊鶯

天保文年
丙午正月吉日

後者三並相系巻後

天保
甲午

役著二冊わけ

役者三世相

大上上吉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の長さ拾五寸大黒り形く彫り彩色出
て其ようす遠方へ見えるなり
門板八間六尺四寸
弥平次生まれて二歳おやう
御の姿のようにまひ大黒りく切ひらかる
紙ノ羽織ア分かく加ゆ見あらす
源義房様ゆの二歳小ぶる
後方へ引き立ちこれを
入るかの姿の姿ア分くうまひ
後ゆ代参ア後ゆ善男善女座
ゆ見ア来小例ゆて九重錦の奴袴平
後 芝居 男らしい名
とりく 表実ゆ入中ア
なるし 皆殺しの西ゆて
ゆ 切ゆ
ゆ

出ゆ後四十郎 安行ゆ落胆ゆ
三人ゆ切ゆ 場ゆ 二歳平ゆ
安行おやう御の姿のようにまひ
入り中ゆ後ゆ大後での大ゆ
ゆ ゆ
後ゆ 芝居 それゆ
ゆ入ゆ弁慶ゆの姿ゆ御小道ゆ
つのりでゆ弁切ゆ後ゆ一角ゆ落見
ゆ ゆ 芝居 近ゆ
後ゆの四郎の歌ゆ

上上吉 ○ 浅尾為十郎 ゆ
外雅楽瀬ゆ
芝居 奥ゆ
ゆ
ゆ入ゆ三歳ゆ
ゆ三月ゆ後ゆ
ゆ後ゆ

上上吉　（二）　淡路　ゆうの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上五十四　三條実久卿

[illegible]

上上五十五　[illegible]　[illegible]

[illegible]

上上五十六　[illegible]　坂本七兵衛

[illegible]

上上五十七　中村弾正忠

[illegible]

上

回 坂東大八 東ゞ

回 市川新之助 南ゞ

二 陸尾奥右門 角番

坂東氏ゞ

坂東大八

上

回 市川猿蔵 同弟

ろ 坂東勇助八 同弟

全 荻野大蔵 同弟

坂東氏ゞ

坂東大八

上

回 市川猿蔵 同弟

ろ 坂東勇助八 同弟

全 荻野大蔵 同弟

坂東氏ゞ

坂東大八

上

十 大谷友右門 角番

坂東氏ゞ

[illegible]年とあ後いの人今[illegible]ど出動のの人
[illegible]後あてはは出動と[illegible]ますもく

巻頭上上吉 ○ 浅尾国久郎 勇

[illegible] 浅尾氏でありまして近頃[illegible]
動らあれ[illegible]人数のまれ[illegible]
浅尾国久[illegible]
[illegible]

[illegible] おの浅[illegible]
[illegible]

巻頭上上吉 ◎ 市川銀十郎 角力

[illegible] 市川氏でありまして浅尾[illegible]氏と[illegible]

の巻頭に使ありまして市川[illegible]
[illegible]年の浅[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉　◎　中村文三郎

[癸]　五番目　[ヒ年]

上上吉　◎　浅村長三郎

[癸]　[ヒ年]

上上　◎　藤上伊三郎

[癸]　[ヒ年]

上上　◎　[illegible]

▲若女形之部

上上吉 ㊥ 若井半太郎

[役] 天狗屋の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

毎年ごとに物でうりとなれども
ものこと系統をば後とお勧利利
ちゑく二つ物の切紙終るとなりく
[中段] 切紙終りの中の安楽の
業後味のものでうりさこの安楽
ところの拝ぶ後さ利利なく [段]
終りの後の月末也。浄土宗の安楽
ばれ者の安楽の後の方
のごとくさこの安楽の師こうと
なぶ後 [段] 三段 [段] てこのごとく
とこの乳が利いとゆきとみのなごこと
ごのなりそこうのこうりこのこと
そこうんとはおいこのれたこのれ
ところはのごと [段] 切紙の中のごと
の月末後のかかかうかれるこのやく

ごとにもかうかりの上でこく先ばう
おつこて系統のお勧利後こく
上上吉 ㊀ 貴人 [段] 貴人氏でりの中ごこの系統ばな
[段] 貴人氏でりの中ごこの系統ばな
浄土宗門の後 [段] ばなこと
はうこのこのこの人のこのうこと
りこと [段] 三段ばれ本後安楽の月
こうこと [段] はおうこうりこと
系本後の月末後の月末後の
中ごのごこ後このこのこと
のこうこのこのこのこと
ごのこの仲おこのこのこ
りこと [段] 安楽の術師後の後
後このこのこのこのこ
ごこりこと [段] 後のこのこ

のうちぞ【図】京西しぶ江戸用
まの角屋敷を国持衆柳ヶ瀬
ら多くの人金をとり
【図】京会津役御
ろかりまりこ者の世話安房
わどの仕方わどの
まりこ【図】を後が新
屋長へかりの
方のまりこ九月
月ろ法忠国の
中ろのくでまりこ
かる【図】ふ後へ
猪と後れ用ふ
りろろろ長へ
ひとぶくしぶ
ひとぶ動を

ゆちゆちるそく
上上上旨 ㊞ 伊山南校 △
【図】伊山氏でごろ
三ろろ伊の長へ
りろくかりとあ
後ろ長ろ文ろ
知ろ三ろ力と
おろた八ろの
動九ろ伊ろ
ろろ八ろ郡ろ
でろりろどの
れど出動ろく
そのろくろ
後の出動ろ
ろ出動を

上上上吉

近年のわかい衆の風儀

上上吉

中村梅若

上上吉

三
大工流
己の十三日三日より 角意あらら
一谷嫩軍記 各代大坂えんら
度幸中村扇蔵
中村歌右衛門
中村歌七
中村芝翫
中村歌十郎
中村歌六
中村歌昇
中村歌蝶
中村歌之助
中村歌女之丞
中村歌柳
中村歌雀
中村歌鶴
中村歌寿郎
中村歌亀
中村歌梅
中村歌三郎
中村歌門
中村歌之丞
中村歌十郎
中村歌右衛門
中村歌十郎
中村歌右衛門
中村歌十郎
中村歌十郎
中村歌十郎

もゝ[illegible]こゝらの社家いわ[illegible]中人のうふ
[illegible]すかなくて[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]ようぶ[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]
[illegible]

統後芝居へ出勤でゐる外出勤の新人
せ取揃くるけつこうなのばまはかの抱の
義絃二段共に浮くお仕合せ〳〵
○坂東氏も退くことの上達でゐる外
わづか九年の浮世の中の新切義藤
又娘千代さ二段ともに出来まする〳〵

ヒイキ どうぞの方と段がつけて人人の
ご贔屓人人も出情〳〵

上上

中村芝翫　中村芝雀　中村芝七　角座
荻野沖之丞　市川海老蔵　尾上梅朝　口座

ヒイキ よりとよりでゐる外さつい成人の成
のえやかまのの義安様よりまるる
傍角 七月でもめつの今年の新人の
十七四郎さ忠さ市川海老蔵

その方の方の方の外出勤の新人
一の谷の方様の方様の方の方の方
一年生よりく三社の浮世の義藤
口出情く○浮世の義藤の新京橋
芝居の浮世の新人の方の方の方
ゆりさ上でゐる〳〵○橋さ藤さの方
より浮世の方の外出勤でゐる外
千代様さ義藤の浮世の浮世の方
でゐるさお三人の方の方の方
く出情〳〵

上上

中村歌保丞　△
中村福助　角座
中村松助　口座
嵐吹五郎　市川海老蔵　口座
坂東彦三郎　口座

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲手水の女形流中入は自然と記事あり

上上上上図の通り　宮川南北郷　角社

図入　井筒屋の浄瑠璃　息吹ひ身ち

くご芝居でひやくと天狗ちり変て

のか勧弁則とあつて家社会也く

はさ後ハ久くまて角の役ハ秘文を

付て山王勧ちハ路ものく商屋

ハ人せ三社のお役別てはくろう

天ちゆ弁則ちあつて最初ハ各

まおとり飛役ハ弁則ハ貴名球

利ばかりもちぐ社者勇ち

とるとのうまひうふとハ人でまりと

図入　手行とあらふうぐとちと前

と芝居巻く付て後ハ弁則のようと

かつてかるれまちとちつとちつ

もつてこけさやうがみ姫ちゆ姫ちゆ

ようふりまをふとあひまと　ヒイキ　物と

ぬうもぞれちよもやのふの勇ちハ

ひくらハちふちるとふ恋と人せるの

おやりとんの時ちあまハ作も新

んりハ我ハ人切者の仇人の天狗ハ

あちんがついけさぐらハで今時の

ハ人有の勇ち入ハのハちハ出ぐと

ちりこんでけつりま　図入　東西く作

の為ち只今ハ芝居者がもつりハ家

ちして中く皆ハ人ちハ　ヒイキ　ていさん下

まを出ちんでもうぞでもを受人の西

ぐひハぐこでをとやりをさまばりまま

を出ハ振り弁お役の弁則もよりく

そちうハひ為ハ芝居も大公ん見て

お仕合せ〳〵
このごろ
上上吉（表油ワキ） 長川表表 △

江戸屋のたき女さんでござる外表表
新吉原の関之助様は病中か
ずっとお勤めなされ後関東へおくりの
よし 吹屋所芳花一寸ばかり出勤らしく
千本様よりやはりおそく後お勤
ぶらぶらとつかれ日お勤めなされ
ぶら病気今は出勤かくざんれん〳〵

ヒイキ よん女ぐるやぐるぐるあるよう
あのつてはは出勤なされ〳〵
表油ワキ 表上上吉 ◎ 沢村國太郎 角辻

江戸屋のたき女さんでござる外
代おく今は一昨年の夏は病気にて

おなくく義経なされ〳〵
ぶらぶらとつかれ出勤かくはなされ
関ぶらぶらとつかれ日お勤
芸能ぶらぶら長病のうち大病
芸能ぶらぶらもうもあるは ヒイキ 源さおんん
おん表今では進者で出勤かくた
一方の義太夫ひいきのあるもの
あるん今度の新作をふんだん〳〵
表上上吉 ◎ 中村歌六 ちがへ

関ぶら 関所のたき女さんでござる
一昨年の西坂源さうう源が出外
安 女が源が出外とて歌舞伎
のたき女さんが芸者の芸者と出て
義経さんでもたくさんやはりうそ
ちゃんあんあの義太夫 関ぶら 二の幕
源義経はなかなかの方

二段ずつよりあがりてらんぷ
ゑがきまいらせ　図　三段ずつ帝王書流香も
やがへかけれどもちりとぶやうにてかり
くらさ　図　三のうつくしき絵ゑがきつけ
たる枝ずつ　図　川中島の合戦
如然わかいかやうの上でんぐうの
やうさ　図　義深小女帝や義やう
まてとりくいまるやうさ　図　夕乗業
師生徒の出勤まてえ代義政
中　図　うるさいひるとさまうれぐさう
かつの腹ぐうとふてさんめく二ゆ十如
おくびすずまるの　図　切義経
笠屋三ゑ門後小川伝ゆ七ゑれぐも
ゆかりの人物ゑまてそれとまるうの
やうさ　図　義師へぐしくゆ人

のおいとまをいたゞきて入ゆりてお
仕合せ　図　八月よりの旅後ゑ
乃出勤東海道ゑ抜方ゑさうこ
御新二ゆ十ゑのおゆ二ゆ十ゑおもち
ゆえのうゑれいやうゑ大でさく
　図　かるゑ娘ゑ娘ゑのでゆ色とても
チト情ごゑゑうゆ切意抄書ゑ
ぐのゑさんやく式狂言京業師ゆ
ゆうゑ殺れ三ゑのゆ出ゆ　男和
へゑゑぐごそれゑ唐人ごと仕ゑ
ゆうさ　図　それゑ九月ゑ中の変ゑ
十月ゑ張ゑ表ゑ次女ゑ八代義
市娘おうゑ延ゑさらへ三やくとも
ゆゑゑくでゆうさ為ゑ見ゑ
京者例ゑ抜くおゆり千女様ゑ

指を安物ゆせんゆく指をよめりん
ちる雨お指をすてし上をおくち
ぶのひとりんまーさ大でた 上系 二ヤ
あびかれぜんぶ大ぶんとんんくられども
あびかがそさうれまーさ 下系 東濃
男我又命ゆく 下系 ちまた大坂で
川見人牡丹よいとられたさりよ女ゲ
よんと女くゲ今夜ハモ下ちめぶひ
ヤ三そうつ二ヤ梯ハめりそうふ
でまーさ大あうくふ六ヤの蔓
内もそでうりそまーさ三切い式
かんで指ーさ大ぼうく 又切系
実勇ちりんよさ女の情がなるのよ
女形でのりもんもひでいとと法
ーうねえと付て初りめちりと

れこゆまいこ表八ヤーさく 太指ヤハの
長やうかりのと結ーさく
大わらび 六上上吉 ▲ 数 巻 頭
中村芝翫 角注
翫 初は形がいよ出ん長ん結て
くなり移山近在ヤ中でも
ありいぶうる成駒屋でござう
ヤ三 大世 連中 浅葱 切幕 新聞
結ていさく 小ム 結ッて居さいく
若共 皆ーさくちよと一ぞん指ー平
系ふ四の日限と兵ーどやァ歩ーぶり
ゲィさ四ハト実キ二ヌ実キ結て又
きべ祝に付ゲ刀付て銀ーもるとび
あげて桂馬づいのぶりと結り
と表ーされと大変あげてエラ今表

金将のをまへも四あるゆゑにとて香車
ちがひにのるまんとたたう指てをでよ
角のめうをあへあつゝ迎んでめうと
又れば人の山分動かゝ稼ぐ稼ぐ接へ
引ぎりとうがのよを内よりかり筋
よりり船逆てかるを中の角の
川筋付る元船中とのぞけど
芝鶴史飛車いらん新とて
どうとのつ迎成弱屋詰をとをさ
脱びのしを起合の行屋く詰る
のを配り桂の正突ふ孔ぬり桂り
歩り初日三歩時度を祝宴とを
又れば王大将く敷多の内人拍と
し芝居ようり外へ内へとヨシモウトお
致白ヤウチヤく 形式 色ゝく先程

よりの内ゝと桂ゝ注 桂ゝれ芝居史
桂の歩ゝ歩ゝ芝居のおまとゝ歩ゝ
歩代ゝ内ゝ桂ゝ上手ゝ桂ゝ桂ゝ人ゝ
ゝて芝鶴史の絶縁ようゝまま
ゝ史顔ゝ人ゝ初日延ゝ行ゝ
歩の西十二月一百ゝ多ゝ桂ゝ
でゝゝとゝ西ゝの外初日ゝの大人
大ゝんゝゝう茶屋ゝ八ゝの茶屋人
浪ゝ役注ゝ方ゝ注ゝ歩ゝ方ゝ注ゝ歩ゝ
ゝ初ゝゝゝ芝ゝ年ゝ中ゝ中ゝ年
の例ゝ役ゝ元ゝ例ゝ付ゝゝゝの逆
ゝゝゝゝ自ゝゝ芝ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
役ゝ動ゝ元ゝ役ゝの人ゝ作ゝ利ゝ元ゝ人ゝ人
ゝ歩ゝ芝ゝの芝ゝ絶ゝ縁ゝ作ゝゝゝゝ

みつ外 セミバ 後藤江戸神まちのうち
なりあつ チトうまひがてこだ
ゆきこ二月月番切りんまう 源五
めのそひ源とこの 親あの名のくも
あらんそのひ小さくで小さ命ハ気が
ものあ強大雑さんまのあり
のゆうあうれ ゆきこ 仮人 金神三
月月番強くあ さごこもあの方
もりあ月番切りこ ゆきて番
実検とんでうゆ命さとひ
ゆでハ後程家ゆ へでうまひがて
ふさあうんじの後名のとき
うまひがこういで弥食まく
とハ大きよ住ぬ ぐらぐらこま
ーこ ヒキ そんや野菜の表ハ

いろいろハ見えハ人の強とのあ
くの後若ハ見かあらげ大きい更
ぐうつうくとらもゆかく
武若ぶり出ハ人よく三の切月月
だかの大でくく 改 大切山うだた
八重桐渡 ホタ 部だ の形貴
後ての年に武若でハたぐあが
後元 の毎多ハ出て今た
ハ後ゆ ゆもばハ全後ゆて上
でくく ヒキ 才ハ ハくこんかのハ
ハ多おおと入こめあうく
そ上今後業ル中で出ハと月
出ハく ざこで ゆ新人せ初月の
雑しく 低協ガよるくの大へ
大ん ぎうハこ ハおよぐうく

[大意] 二のつりさはめさせしいうをとゝ
ゆてゆるゞ〳〵

▲ 後見

[古今意] 惣義 中村教右ウ 角力

[解] 扨今ゆるゝ者ハ道廣いよ
く広ゞ行義ハ一道の勢ハ
ひ物の中さえ出ゆ [連中] 山安
ゆ子ハ美敗ハ久ゝくなてよ後明て
ハ廣ハ さ頭ハ世ハ間ハ出でゞゆ
ゆ世ハ出ハ人ハめでゞ [大意] 後見
ゆ世ハ ショシ〳〵モ一ツヤイ ヤシ〳〵
祝ハて三段 ヨシヤシヤシ ヤシヤシ
く [解] 芸ハ赤ハ
ゆ世ハ角ハ三ハつり 稚ハ学ハ
ゆ児ハ芸ハ

[中意] 十八年ハ六余程ハ
九七ハ ハ [解] 二ハ年ハ久ハ
後ハ人ハ廣ハ ハ
二ハ年ハ ハ
ハ ハ [セリバ] ハ後ハ
ハチト ハ
ハ ハ
ハ ハ
ハ

ナイト 仕方ハ切ハ切ハ切

あひ出し【ほこ】こと間ハ阪安ハ分ハ阪て
いろくのなかのもの
体ハ名人ハ中ハ
【図】智り姓云自来也ハ名歌長
三月来也の二段ハ幸角の姓
ハてお勤二段ハ別て評判ハ
おもと入ハ姓云ハ上ハ変ハ
【図】切ハ山焼段とお勤ハ部屋ハ
山の阪延表ハ決ハ添七ハ分ハ
陽寛ハ山の金阪ハ家物ハてコリハ
ハやらハと入ハ出ハハ和ハ月月ハ
てお体ハ物合ハく【図】番歌ハ
角の姓と無ハて江戸ハてハ
芸歌ハとお体ハ家迎ハ
出ハ新ハ中の大ハんハう先ハ

ハく【図】二番歌ハ
ハ者ハく一二番ハ添ハうハて
も芸歌ハ中のハ部ハと人中ハ
【図】ハうハ
ハ歌ハハ
ハるハハ人ハるハ芸ハ
ハてハハ
ハハ今ハ七ハ
ハハく【とり】先歌ハ
ハ迎ハ手ハ
ハハ
ハハ
【図】ハ芸ハ
千秋楽ハ代ハ
ハ

天保五年
甲午 正月吉日

八文舎 自笑
梅枝軒 泊鷺

著

校元 八文舎 養人
酒井 良助

役者二世相 永太板下 巻紙

御藥方根元
免 奥州岩城 **藥王丸** 價 壹百銅
同半包 黒銅

腹痛

そもそもこのけさむふも気腹痛とて大なるご大病なり。
そのゆゑんあつさ寒さ食ものこのこひ
合ふともいつとて水のかちうふるいつれの
えらいとてもいかなる速効あること神の如

癪氣

老ゆも男女ともあれどもこのこらふじんふおやさ
ゆまいさ老ゆさいのらうちりもおこりてやいまち
びやうである人びつれのおやくみてもは気に病あれ
びいつそのとき年久しくなりひやうでもいかでとらんと

留飲

つうしんいんたべものとくくむおとごころうてむ
ねをいつとの黄水を大紀なるどもとくくたやく
ばまをとれやれば心ねとひらさこ食りつのこな
れよくさこつい使ひとうとて流ひとうとこひ。

痢病

つねびやうふえやまひのうちにはすべてこれをまいちやうだひくうこんをたてるもふれまたはくわめぐりのちよいちやうぐうるぶこれをえやくもちゐればそくこうあるとうはの

食傷

あしよくあやうしかやうのことはうちのごあひあつたへあたらせるゆえなにつこみはまたあるいはまたあるいはまたあるあるいはまたあるいはまたあるいはまた

黴毒

ていどくといふは、まめ、さてておけば一生のうれいとなるなり。ねつあるべからず。ふうどさとう又上へのぼれば目耳えるうるくげんかんそうのどのもは、まを用ひて妙効あるべし

中風

ちうふうのかまひいとうがんいろ〳〵あり。酒毒よりおこるまたは、ねつの多きよりおこるあり。又おのうこへまたは、ふるへるへもは、まを用ひて妙効あれば、ぜひとべてらうれの妙

帯下

こしけいふどんのまたはえづべさあれば、ふうぬの中にてもそのまわりたべたしまひさをておけばかがちあらちまるくえまは、まをもちゐれば、こしけのこうべ下るく

神養

男女ともにさいぼうむまれつきよりよわつ〳〵はは、まを用ゐれば、うちをあざるひせいをまんねつをさまし、あくりつのこるれよくあぜんとげんさをまんとは、まの奇効あり

さんぐん并小児

さんぜんさんごの未よびゆうを用ひて妙効ふには、まを用ひそのちをふ児よのまたれいたいとくけるくせいじんののちまでもひ系ひつのうれいをとるもあるこは、まのふべをと

五功丸

價壹包四銅

同一週り銀三匁

○第一は留飲をぶし胸のいたみをとる黄水と三便より下しをる妙効

○第二は逆上して目かすみ耳なり歯いたみ手足の頭痛ふ用ひて妙効

○第三は頭瘡小児丹毒かゆの腫物雁ぶるその外をべくひる忍有て用て吉

○第四は酒毒にて身うちそれ胸痛を酒よりおこる二日酔ひをる人用ひて妙効

○第五は大べん通じあしく人は、まをとるまれ小あのうちをよく通ずる

家傳妙方

三國一風藥

價一ゑん　十六銅
同十ゑんぶ　百四銅

功能書

○かぜいつさいのぞつうよし
○けんけつきめまひよし。たんせきよし
○胸のふさがるひとよし。ねひえよし
○ちのみちふよし。志ようさこんぶひとよし

本家調合所　大悠心齋橋博労町北ヒ入　河内屋重太郎

賣弘所　京三条通東洞院東入　大文字屋得五郎

取次

江戸小傳馬町三丁目　書林　丁子屋平兵衛
同　南傳馬町三丁目　同　三輪里幸藏
諸国の本屋に取次所多くさつ出す。置ない所の方角四手よりの方へ急飛なるべし。

天保
甲午
後藤二郎相模
下

得有三世相

作者の吉凶縁

春屋定

乾ハ
さかり打ぬきるの宮ゝ男性
卦の新人年ごろ月てゆくるの
武士のさがさ一月と至ること
なる性えのとりめ

巽ハ
卦ハ家園とうばこうんとはら
るゆくゝたまゝの後ゝの隠係
ろけんゝて実方を考てゆく
ろ位てんだの大切り

震ハ
卦ハ娘けい世ゝ活女房
家老のあるこをもひろ
ゝ位ろるゆのでも自由自在

坤ハ
卦ハ家内とすりの人ゝ
はゝたわしに基ゝの様ゝん
ば世話程ゝ金のさのそく
ゝくがくるくお芋ゝのオ一

艮は　道外

坤は　花車

離は　蒼穹

兌は　子殺

震は　他者

江都三座狂言目録

堀町　中村勘三郎座

葺屋町　市村羽左衛門座

木挽町　森田勘弥座

▲狂言絵尽　市川團十郎

上上吉　市川海老蔵は

後見

極上吉　尾上菊五郎

▲立役之部

上上吉　坂東三津五郎

上上吉　沢村訥升は

上上吉 三桝源之助 中
月丸と源判ゑ出物の物ぐろ山

上上吉 市川美蔵 表
何役ようけてもよくそろの狂言山

上上吉 市川富蔵 中
初めきら日きゝよ出物の月山

上上吉 市川鯉三郎 表
すゝこぞんざ上れの赤蝶山

上上吉 市川八百蔵 中
かゝおいハすつぺの甲斐の風流山

上上吉 市川宗三郎 中
江戸あの及物よ戒後の八丈山

上上吉 尾上松助 月
出情し七動きゝ人甲斐の天目山

上上吉 嵐七五郎 表
又物のこゝふ今度の仮出やま

上上吉 松本錦助 月
中村豹十郎 中

上上 関十郎 中
源判ゑ出物のきりと出物の表山

上上 中村勘弥 表
市川菊十郎 中

上上 松本幸四郎 表
松本光之助 中
沢村国三郎 表
坂東和十郎 月
沢村訥之助 月
いつも今ごろ仮伊勢のもぐら山

大上上吉 ▲別座
中村芝翫 中
なごりの三番叟八百屋とゝ孫山

上上吉 ▲敵役之部
市川市蔵 中
うゝ夫あゝうれゝなるさぐゝの大山

上上吉 大谷友右衛門 表
どんくとうけのよういさぐゝの四天王山

上上 十四 成田屋雲清 月

老功大メ月のある江戸三上山

上上 十三 中山文五郎 中

ほたい上戸の妙義山

上上 十二 中村芝翫 中

名ごりをするのあり方山

上上 十一 関歌助 市

功者ようこなされ牛庵戸のこぎり山

上上 十 片岡京次郎 月

大八谷五郎 市

上上 九 坂東寿太郎 月

ほたんのつも上総のかず山

上上 八 沢村志賀丸 月

市川一友 表

上上 七 瀧尾鬼一 中

松本虎義 月

尾上梅五郎 市

嵐冠次郎 中

坂東寿太郎 市

久兵衛をあるのく八ッ七嶽

中沢勘左衛門 月

市川雷蔵 市

中村芝翫 中

はぐりそ岩本行勢の弁引山

瀧谷平九郎 表

松本深五郎 中

いつもうぐつ紙おの三五山

市川雷蔵 表

沢村紀治 月

中村芝翫 市

市川段三郎 表

片岡京次郎 市

立枝ったあるくれて仏波の天板山

上上 十三 中 軸

師匠まつのそとなべと三五郎ろくれ山

市川團十郎 市

上上上上上

中村武蔵守中
かのかりとゆとゝあるの後藤屋山
中村武蔵守中
坂東武者十郎平
坂東重義東

三階のうらとうのむちぶ山
関三平
熊沢弥太郎東
尾上扇義平
坂東巨勢重国

東のうらとうあまる大平山
尾上東治郎平
市川蓮右衛平
沢村源三郎平
尾上嘉太郎中
冥　秋　十平
中村常太郎国
坂東徳次郎東

上上

坂東熊右衛平
市川蓮治中
大谷馬平東
尾上春太郎平
尾上かま六国

市川伊蓮六中
市川蓮太郎平
熊沢扇作東
市山与義平
市川三九郎国
中村市太郎国
中村歌市国
市川弘八国
尾上常太郎国
沢村今義東
尾上徳義平
小花川与太郎国
市蓮常義平

上上吉　坂東足利義氏　東　若月

上　坂東三位　東　熊谷

上　坂東熊谷師　月

坂東仙十郎　市

坂東筑八　月

大谷梅吉　中

中村トキ八　月

中村六助　月

中山てう兵　月

大谷ちう兵　市

沢村長八郎　中

嵐　雀　市

坂東三津五郎　東

上上吉　一服者のうち紙おのあらち山

▲雲　柚

嵐　冠十郎　中

安勢みちおくてうあらの弱々嶽

上上吉　▲道鼓之部

嵐沢玉　六　東

よくうまつーぐる東五の中田山

上上　三枝　東蓋　中

ひろうかせるとう城中の妙見山

上上　相馬仙台　東

みまづぐるぐう三河のくりうく山

上上　坂東大吉　月

ハテよくうり本上五のうるる山

▲蓋女形之部

上上吉　岩井半四郎　月

東よう名うた出羽のうち海山

上上吉　山下金作　市

大まよとうされ本十東五の岩蔵山

上上吉　嵐　亀三郎　中

ゆうきりとうあげほてさよ五の宮まあ山

上上吉　瀬川多門　中

ろうくいうり出りあの八陸奥金花山

上上士　瀬川路之助　東

上上二　中村小三郎　中

上上二　叶　祇　子　東

上上二　瀬川菊三郎　中

上上二　市川三之助　中

上上二　坂東佳　潤　東

上上二　中村鶴　東　同

上上二　岩井紫　雀　中

上上二　坂東あ　こ　東

上上二　松ぢ　ま　中

上上二　市川徒　之助　中

上上二　中村歌　次郎　同

上上二　岩井喜　次郎　同

上上二　岩井屋三郎　中

上上二　岩井長　郎　同

上上二　市川外　吉　東

上上二　坂東家　菊　中

上上二　中村梅　之助　中

上上二　実　松　代　中

上上二　市川長　次郎　中

上上二　瀬川菊　老　東

上上二　岩井粂　郎　中

上上二　瀬川屋　之助　中

上上二　市川三　紅　中

上上二　市川白　助　同

上上二　坂東竜　之助　中

上上二　小坂川　長　郎　東

上上二　坂東三　郎　中

上上一　中村芝翫中
師匠の加賀の杉の世話
上上吉　坂東玉三郎表
知恵ーと夏の日の出山
上上吉　尾上菊三郎中
を年ゝ
上上吉　中上三ゝ中
チト物ばいゝのをの石山
上上吉　小佐川常世表
年場役い夏見　嶽山

古今無類　岩井粂三郎表
姫路ハ三ゝびゝ名ゝすゝゞの富士山
▲美氣飛ゝ役之郎
浮世右　松中
坂東蓑助表
尾上紋三郎中
三桝大三郎中

上　上

山神武右中
市川彦三郎表
岩井粂三郎中
尾上菊之助中
中村弥三郎中
沢村沢平中
岩井粂三郎中
嵐万右衛中
坂東相蓑中
岩井粂三郎表
坂東義化中
瀧川路右郎中
中村イ蓑中
中村七蓑中
中村友蓑中
市川八蓑中
嵐音八中
市川彦三郎表

上　　上

三枡代人市川紋右衛
市川青右市
中村智右衛
紫野右市衛
紫野銀右
浅尾義次郎市
市川蘭六中
沢村助義衛
中村吉十郎中
中村林之助
中村駒八
中村紋右
関三治市
関二義
中村紋三郎市
中村寿之助中
中村弥平

功上吉　▲鶴亀養柚　関三十郎市　中村紋右衛門中
至上吉　いつもうつる反魂万代山　市川團蔵
古今無類　▲鶴亀浦見　松本幸四郎中
上上吉　▲右文元之郎　中村勘三郎
上上吉　市村羽左衛
上上吉　市村田助泉
上上吉　▲美名文の新　中村信蔵
上上吉　株式相撲ひい富士の宝永山

▲三ヶ産

中村産

市村産

森田産

▲報恩者之部

中村産

市村産

森田産

産頭取之部

中村海九

清水三右ヱ門

坂本章平

松井たの助

小川重右ヱ門

中村孫子

森田治助

眞宮二助

松井八

竹木文

玉川

高橋

中村

寺

村里助

井村

福島

邪助

勢

森田産

市村産

福原喜久助

森田千九郎

村田孫子

金井由義

松井勝義

菊山文助

坂山忠次郎

三桃正三

本河本助

笹木五郎

笹田銀

福田全

[illegible]

[illegible]

[illegible]

市川團十郎
市川海老蔵
坂東三津五郎

述之日毎の大入数百日打続くやづら幕
坂東小十代続くやづら幕
ちんや紋蔵の市川く
仙右衛門自筆

右芝居仕様ハ三年の間延引ひ及ひ発起之仕様ハ今年未迄ちのとのうつ
中上ちのとの年

▲ちやうまち
上上吉 ◎ 市川團十郎

[明九] 五月西くのとの日ちやうまち三座のうつ
ちやうまちの山口宝木の家の所ハ
の無者八代ハ五代ハ
ふの所切三年大ぢやう
[明九] 出来町三座
[明九] 一ハ年白猿ハ
[明九] 初ハ
[明九] 冨士ハ三年ハ
大ぢやう

▲後見

極上吉 ◎ 市川海老蔵

[illegible]

元弘元年きれいの事
[illegible]

元弘元年三月廿五日
[illegible]

元弘元年五月廿日
[illegible]

元弘元年赤橋
[illegible]

[illegible]

元弘元年
[illegible]

七月末板町体中鳴町へ前ゆそ三長ゆ越
七度ゆ泉法ゆ之筑ゆ三保ゆそ三保傍人
とゆめゆ西ゆ上ゆ紀ゆ上ゆあゆ三ゆ谷ゆ世ゆ巫
初世上ゆ巫ゆ法平の軍初ゆ夫ゆ列れて
紀ゆ上ゆ三ゆ谷ゆ中ゆ上ゆ西ゆ泉法ゆとゆ
ゆけゆれゆ上ゆ人ゆ刀ゆ和ゆの長ゆ天法判 元弘六
り和ゆ紀ゆ雲り飛ゆ三ゆ谷ゆ法ゆ分ゆ白ゆ後ゆ
ゆ芸ゆ紀ゆ芸ゆ長ゆ芸ゆ西ゆ目ゆ三ゆ谷ゆ平ゆ三ゆ
元弘七 ゆ上ゆ人ゆ刀ゆ和ゆ長ゆ法ゆ長ゆ人
ゆ法ゆ法ゆ法ゆ長ゆ長ゆ長ゆ 老人 ゆ長ゆ中ゆ年ゆ和ゆ
ゆ法ゆ法ゆ法ゆ元ゆ祖ゆ中ゆ村ゆ歌ゆ長ゆ昭ゆ和ゆ年ゆ中ゆ
ゆ代ゆ市ゆ川ゆ堂ゆ十ゆ師ゆ上ゆ中ゆ歌ゆ堂ゆ歌ゆ
ゆ長ゆ上ゆ長ゆ三ゆ保ゆ谷ゆ平ゆ上ゆ長ゆ長ゆ長ゆ
ゆ長ゆ上ゆ長ゆ法ゆ長ゆ長ゆ法ゆ長ゆ長ゆ長ゆ
ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ

ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ
ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ
ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ
ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ
ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ
ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ
ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ
ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ
ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ
ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ法ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

本[安中連]俗に称せし三月中の湯治とおい
でゝ出ること十月の末でゆくゝ冬ごもりされ
ば人せうの見えこしいるゝたのまこゝ所そせう手
いるる[段之]はれむでゆく手拍数人世ゝ中村ゆ芝
数大江ゆゝそ三ゝゆゝ口ゝゆゝの茶ゝ生ゝていけ
世のこゝゆゝ出そ芝数大梅我ゝ三人ゝゝ山ゝ湯
写ゝくゝゝ源の長ゝゝ大梅染ゝ茶のゝゝ夜
ゝゝいゝ師六ゝゝて芝数大とゝ西俗ず[元功者]
さゝゝ出ゝ我ゝ梅ゝ芝ゝ数ゝ梅ゝ芝ゝゝ浜治郎
実ゝ数中梅ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝの茶の湯大梅[段之]長我ゝ三本秋ゝ
三ゝゝ梅沢の小ゝゝ三月ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ梅ゝ歩くゝゝゝ三ゝの初夜ゝの梅[元功]
[芝]いゝゝゝ長の外ゝゝゝゝゝゝゝゝ芝
ゝ三ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

何とゝゝゝ芝我ゝ梅の白猪梅ゝゝゝゝ
ゝゝの梅ゝゝ梅ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
千ゝゝゝゝ中村ゝ芝我ゝ梅ゝ芝ゝゝゝゝ
ゝ梅人数ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
芝我ゝ梅ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
の梅ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
梅別ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝく出ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ傑ゝ仁田ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
付ゝ写ゝ二段白ゝゝゝ山川の新ゝゝゝ
打ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
三月ゝゝ芝ゝ梅ゝ陸ゝ陸ゝ制ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

上上三四　三浦源之助

[考人]いにしへ人の云ふ事なりとて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

法師まる殿うち物でその時ごろ八戈ちの房たち
と、殺きこそのうち殿あつて市川彩義ノ中山
富三郎又ハ三郎と義と殺きこそ殺きこそ
らの殿の切ちの中ハ師匠百姓ものの殺ハ中れ
出張して大きちこそ殺きこそ殺きこそ殺ちの手で

上上上上 ◎ 市川宮雅義花中

[脱文] そのうちの殿の殺ハ中ハ師匠でそう
殺ハ三天とちつて大きの義と先ハ殺きこそ殺ひ
きの殺ハ殺きこそ [脱文] そのうちの殿の殺ハ中ハ師匠でそう
きれど殺ハ三天ハ殺きこそ殺きれども殺ハ幼生ちの上方
へのぞ殺れ義ハ八月中ハ殺きこそ殺きを殺ちの殺ハ
ものも天きれど例のうちの殿で少るのうきこそ殺ちく
二殺二死ちの義ハ大きこそ殺きを殺ハ殺ハ殺きこ
れきこそ殺ハ殺きこそ殺きこそ殺ちの殺ハ殺ハ殺きこ
ちきれどこそ殺ちの義ハ殺ハ殺ハ殺

一天ぐわん氏不明男爵中分臣浮ゐ入れ臣
金物ゐ上ゐ御ゐ中分臣浮ゐ入れ臣 [図元] 安政五巳
一万年ゐゐ二万兵三ゐ臣ゐ一ゐ長不能ゐ長
[元治元] いろゐと思ひの人大安来ゐゐり [元治元] 長武
安ゐ一ゐ北臣十ゐ年ゐゐゐゐ方ゐゐゐゐ
ゐゐであゐゐゐゐ思ひ入れ一ゐゐ強ゐゐ三ゐん
め五分の三ゐ三ゐ大安来ゐ九月中村は安芝
税ゐ三ゐゐゐの方ゐゐ十歳ゐゐゐ強く
二年く制ゐ代ゐゐ臣ゐく分ゐ祝ゐの郷北ま
ゐだんまゐの強ゐ安来ゐゐ切ゐ祝ゐのゐ
ゐど市川流のゐ荒ゐゐ強く [考人] 強ゐと
ゐ強ゐゐ上ゐゐゐ強ゐゐ入ゐゐ来ゐゐ
ゐゐの長ゐ安ゐ今ゐ手

上上十三回 [回] 市川雷三郎所表

[元治元] 七月中旬ゐの長ゐ長ゐ祝ゐ臣ゐ

ゐゐゐゐゐゐゐゐ八ゐゐれゐ元年秋山ゐゐゐ
ゐ臣ゐく強ゐ強ゐ長ゐゐ三ゐ長ゐゐゐ臣ゐく
長長ゐ [元治元] 十月 [考] 長ゐ一ゐ妖ゐゐゐゐゐゐゐゐ強ゐ院
ちゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ [考人] 強ゐゐ上ゐゐゐ強ゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

[illegible]九月浜四民幼二年二歳の[illegible]三
[illegible]迄[illegible]迄[illegible]
[illegible]ぞれ今の[illegible]

上上吉 回 市川八百蔵 中

[illegible]
今[illegible]
[illegible]上[illegible]
[illegible]
[illegible]

沢山出い来るの大変来 [illegible] 二
役舟ばり [illegible] 出 [illegible] 出
牡丹の出 [illegible] 出 [illegible] 出 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中村座
市村羽左衛門
千歳
三番叟

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲敵役之部

上上吉 ㊀ 片岡市蔵

[役名] 当時ならぶなしの名人のわかやぎ
[発人] 松本幸四郎

本朝新蔵の弟子にて
[役名] 武蔵坊弁慶
[発人] 尾上菊五郎

[役名] 松浦の宮中の天狗
[発人] 坂東三津五郎

[役名] 源之助の
[発人] 坂東彦三郎

[役名] 源之助の
[発人] 坂東彦三郎

時奥州より義大領利を後ろ盾として
本拠[現在]岩手郡[義経の師匠][元弘][初下ル]
でゝり手く山名ほとたちハ大お手多く九月往古
那生の所ゝ宮くく南往古屋の内領金
て往古く休屋の渋谷く何れ長き世と伝ふ
上上吉 ⊕ 大谷友右衛門 表
[現在]新しき世よりの者ハ府内にて始めくの中
夫宮くく二ヶ所の世の者ハ伝ふと大お手多く
我内閣ハ元ゝ初めハ長 [元弘]浜村老ゝ
おくとこの長ゝでみくゝ山名ほとたちハ二ヶ所世の外大お手多く
[現在]ゝよ山名ほとたちハ二ヶ所世ハ大お
来七月お休ゝ和田ハ二ヶ所田
無法師宮くく九月往ほとたちハ大
来ゝ長ゝ宮ゝ[初下ル]でゝり手く大家の
執権とハ人[現在]ハ[元弘]ハ[初下ル]

まゝとこ長ゝ宮ゝ長ゝ宮ゝ長ゝ宮ゝ

未初報を世に中山民海報たるに世上の
法橋宮くまいの為我に大義因縁系二月
大世ごのを谷清報さうの白井橋八ホ
を云物七月報を立たら九月業世なるもの
後人のつとをもおりうの手を業大の報を世
本出報のの為三年下市の九物の為我に海白川
の物義法二月業年に月報縁おの白井に八
まを物九月なるもの後人に出を業九〔業人〕
ひ安人の報人に嵐雅物の川人彩年まよと
世を赤に九年

五郎左衛門目録より世を赤に

▲中舳

上上吉 ◎市川鯉十郎 市

〔役名〕一世年おとりの為の白後大月江
を東海道の旅行と後やうく十月末海

世に中を報下世に物報を世大江たら場
の中に出てく三回仕をとりの市川流業ご
宮にくの我に三宮に対二月八中村を世酒
が嶽の海場は嶽の母遠世〔元禄〕を光
年大海表を大海の表は大海の表八たりど
も当れを〔業屋〕のをく人をとの八ごの方
場一月ら月をとをとの川海場の初業を月
をの業場で今本ひをの業をあんを光に報
後をを世をこの海場をて上をの海後に
本報月の和歌をの大安来〔元禄〕後に八一
世年市村をの初ら月報を月に月業
本に業く業報大成一世を後に大縁初
時報をの為八ひを人で今本白井を八を表
物の年の世ちを今本白井を八を表
後行とのを本に海の物の世報海分で

大きなるものとなりぬ今の号にて

上上吉 中村芝十郎中

[元文] 新たに世に出でし芝二級なれども大隈にて

名誉の小歌を中にて二年二ぞめまでド

地の芸にて後に江戸に三月ばかりの芸にて

[元文] 彼は芝大家にて三級なれども自身根人

[元文] 芸は兵助にて三級なれども自身根人

[元文] 芸は兵助にて三級なれども自身根人

[元文] 芸は兵助

ひさち坊 [高坊主] 江戸中久く知られたる旅
僧にて有りしが大震あるより多くの人殺
さるる [ひさち] 此地のことにてなるべし [殺] 者
我が小倉に二年ばかり居たる時の事なり
西の八幡の二丁ばかり西に二月堂出来たり大
変なる流行にて諸人信仰なす中略
[高人] 此地にて和二年の村
中にて流行大時年とかぞへ時長後三年
役業中時とて初めは長大人れば人
で今年を村の一世と今のことれば
子役を白猿子孫なれば長たる大
ろ年は老人で今年 [大切] 大切の為なり

而して此のあたりを此地長崎
▲中道歌之部
上上上 ㊀ 鶴は千年 亀は万年 甚六
[ひさち] いつとても変なる方の人の鶴は
長崎にて長崎にて長崎の二月長崎田長崎
長崎にて長崎にて長崎の長崎の長崎
長崎の二月長崎田長崎の長崎の長崎
長崎にて長崎にて長崎の長崎の長崎
長崎にて長崎にて長崎の長崎の長崎
長崎にて長崎にて長崎の長崎の長崎
[考人] 此人も長崎にて長崎の長崎
長崎にて長崎にて長崎の長崎の長崎
長崎にて長崎にて長崎の長崎の長崎
其人の名を長崎
▲長崎七郡之部
上上上吉 ㊀ 山岳井堂四郎兵衛
[考人] 長崎にて長崎の長崎の長崎
[大切] 我大切にて今年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉

瀬川多門中

[評判] 若衆より強盛なる人にて八重の三月堂写くに成ぬ[illegible]

[評人] 五代目故人瀬川菊之丞十六歳の時に[illegible]

上上一　中　すせ

上上二　上上三　尾上梁三郎

上上四　上上五　尾上梁三郎

上上六　上上七　尾上梁三郎

上上八　上上九　尾上梁三郎

上上十　上上十一　尾上梁三郎

上上十二　上上十三　尾上梁三郎

上上十四　上上十五　尾上梁三郎

上上十六　上上十七　尾上梁三郎

上上十八　上上十九　尾上梁三郎

上上二十　上上二十一　尾上梁三郎

上上二十二　上上二十三　尾上梁三郎

上上二十四　上上二十五　尾上梁三郎

上上二十六　上上二十七　尾上梁三郎

上上二十八　上上二十九　尾上梁三郎

上上三十　上上三十一　尾上梁三郎

上上三十二　上上三十三　尾上梁三郎

上上三十四　上上三十五　尾上梁三郎

上上三十六　上上三十七　尾上梁三郎

上上三十八　上上三十九　尾上梁三郎

上上四十　上上四十一　尾上梁三郎

上上四十二　上上四十三　尾上梁三郎

上上四十四　上上四十五　尾上梁三郎

上上四十六　上上四十七　尾上梁三郎

上上四十八　上上四十九　尾上梁三郎

上上五十　上上五十一　尾上梁三郎

上上五十二　上上五十三　尾上梁三郎

上上五十四　上上五十五　尾上梁三郎

上上五十六　上上五十七　尾上梁三郎

上上五十八　上上五十九　尾上梁三郎

上上六十　上上六十一　尾上梁三郎

上上六十二　上上六十三　尾上梁三郎

上上六十四　上上六十五　尾上梁三郎

上上六十六　上上六十七　尾上梁三郎

上上六十八　上上六十九　尾上梁三郎

上上七十　上上七十一　尾上梁三郎

上上七十二　上上七十三　尾上梁三郎

上上七十四　上上七十五　尾上梁三郎

上上七十六　上上七十七　尾上梁三郎

上上七十八　上上七十九　尾上梁三郎

上上八十　上上八十一　尾上梁三郎

上上八十二　上上八十三　尾上梁三郎

上上八十四　上上八十五　尾上梁三郎

上上八十六　上上八十七　尾上梁三郎

上上八十八　上上八十九　尾上梁三郎

上上九十　上上九十一　尾上梁三郎

上上九十二　上上九十三　尾上梁三郎

上上九十四　上上九十五　尾上梁三郎

上上九十六　上上九十七　尾上梁三郎

上上九十八　上上九十九　尾上梁三郎

上上百　上上百一　尾上梁三郎

上上百二　上上百三　尾上梁三郎

上上百四　上上百五　尾上梁三郎

上上百六　上上百七　尾上梁三郎

上上百八　上上百九　尾上梁三郎

上上百十　上上百十一　尾上梁三郎

上上百十二　上上百十三　尾上梁三郎

上上百十四　上上百十五　尾上梁三郎

上上百十六　上上百十七　尾上梁三郎

上上百十八　上上百十九　尾上梁三郎

上上百二十　上上百二十一　尾上梁三郎

上上百二十二　上上百二十三　尾上梁三郎

上上百二十四　上上百二十五　尾上梁三郎

上上百二十六　上上百二十七　尾上梁三郎

上上百二十八　上上百二十九　尾上梁三郎

上上百三十　上上百三十一　尾上梁三郎

上上百三十二　上上百三十三　尾上梁三郎

上上百三十四　上上百三十五　尾上梁三郎

上上百三十六　上上百三十七　尾上梁三郎

上上百三十八　上上百三十九　尾上梁三郎

上上百四十　上上百四十一　尾上梁三郎

上上百四十二　上上百四十三　尾上梁三郎

上上百四十四　上上百四十五　尾上梁三郎

上上百四十六　上上百四十七　尾上梁三郎

上上百四十八　上上百四十九　尾上梁三郎

上上百五十　上上百五十一　尾上梁三郎

上上百五十二　上上百五十三　尾上梁三郎

上上百五十四　上上百五十五　尾上梁三郎

上上百五十六　上上百五十七　尾上梁三郎

上上百五十八　上上百五十九　尾上梁三郎

上上百六十　上上百六十一　尾上梁三郎

上上百六十二　上上百六十三　尾上梁三郎

上上百六十四　上上百六十五　尾上梁三郎

上上百六十六　上上百六十七　尾上梁三郎

上上百六十八　上上百六十九　尾上梁三郎

上上百七十　上上百七十一　尾上梁三郎

上上百七十二　上上百七十三　尾上梁三郎

上上百七十四　上上百七十五　尾上梁三郎

上上百七十六　上上百七十七　尾上梁三郎

上上百七十八　上上百七十九　尾上梁三郎

上上百八十　上上百八十一　尾上梁三郎

上上百八十二　上上百八十三　尾上梁三郎

上上百八十四　上上百八十五　尾上梁三郎

上上百八十六　上上百八十七　尾上梁三郎

上上百八十八　上上百八十九　尾上梁三郎

上上百九十　上上百九十一　尾上梁三郎

上上百九十二　上上百九十三　尾上梁三郎

上上百九十四　上上百九十五　尾上梁三郎

上上百九十六　上上百九十七　尾上梁三郎

上上百九十八　上上百九十九　尾上梁三郎

上上二百　上上二百一　尾上梁三郎

上上二百二　上上二百三　尾上梁三郎

上上二百四　上上二百五　尾上梁三郎

上上二百六　上上二百七　尾上梁三郎

上上二百八　上上二百九　尾上梁三郎

上上二百十　上上二百十一　尾上梁三郎

上上二百十二　上上二百十三　尾上梁三郎

上上二百十四　上上二百十五　尾上梁三郎

上上二百十六　上上二百十七　尾上梁三郎

上上二百十八　上上二百十九　尾上梁三郎

上上二百二十　上上二百二十一　尾上梁三郎

上上二百二十二　上上二百二十三　尾上梁三郎

上上二百二十四　上上二百二十五　尾上梁三郎

上上二百二十六　上上二百二十七　尾上梁三郎

上上二百二十八　上上二百二十九　尾上梁三郎

上上二百三十　上上二百三十一　尾上梁三郎

上上二百三十二　上上二百三十三　尾上梁三郎

上上二百三十四　上上二百三十五　尾上梁三郎

上上二百三十六　上上二百三十七　尾上梁三郎

上上二百三十八　上上二百三十九　尾上梁三郎

上上二百四十　上上二百四十一　尾上梁三郎

上上二百四十二　上上二百四十三　尾上梁三郎

上上二百四十四　上上二百四十五　尾上梁三郎

上上二百四十六　上上二百四十七　尾上梁三郎

上上二百四十八　上上二百四十九　尾上梁三郎

上上二百五十　上上二百五十一　尾上梁三郎

上上二百五十二　上上二百五十三　尾上梁三郎

上上二百五十四　上上二百五十五　尾上梁三郎

上上二百五十六　上上二百五十七　尾上梁三郎

上上二百五十八　上上二百五十九　尾上梁三郎

上上二百六十　上上二百六十一　尾上梁三郎

上上二百六十二　上上二百六十三　尾上梁三郎

上上二百六十四　上上二百六十五　尾上梁三郎

上上二百六十六　上上二百六十七　尾上梁三郎

上上二百六十八　上上二百六十九　尾上梁三郎

上上二百七十　上上二百七十一　尾上梁三郎

上上二百七十二　上上二百七十三　尾上梁三郎

上上二百七十四　上上二百七十五　尾上梁三郎

上上二百七十六　上上二百七十七　尾上梁三郎

上上二百七十八　上上二百七十九　尾上梁三郎

上上二百八十　上上二百八十一　尾上梁三郎

上上二百八十二　上上二百八十三　尾上梁三郎

上上二百八十四　上上二百八十五　尾上梁三郎

上上二百八十六　上上二百八十七　尾上梁三郎

上上二百八十八　上上二百八十九　尾上梁三郎

上上二百九十　上上二百九十一　尾上梁三郎

上上二百九十二　上上二百九十三　尾上梁三郎

上上二百九十四　上上二百九十五　尾上梁三郎

上上二百九十六　上上二百九十七　尾上梁三郎

上上二百九十八　上上二百九十九　尾上梁三郎

上上三百　上上三百一　尾上梁三郎

上上三百二　上上三百三　尾上梁三郎

上上三百四　上上三百五　尾上梁三郎

上上三百六　上上三百七　尾上梁三郎

上上三百八　上上三百九　尾上梁三郎

上上三百十　上上三百十一　尾上梁三郎

上上三百十二　上上三百十三　尾上梁三郎

上上三百十四　上上三百十五　尾上梁三郎

上上三百十六　上上三百十七　尾上梁三郎

上上三百十八　上上三百十九　尾上梁三郎

上上三百二十　上上三百二十一　尾上梁三郎

上上三百二十二　上上三百二十三　尾上梁三郎

上上三百二十四　上上三百二十五　尾上梁三郎

上上三百二十六　上上三百二十七　尾上梁三郎

上上三百二十八　上上三百二十九　尾上梁三郎

上上三百三十　上上三百三十一　尾上梁三郎

上上三百三十二　上上三百三十三　尾上梁三郎

上上三百三十四　上上三百三十五　尾上梁三郎

上上三百三十六　上上三百三十七　尾上梁三郎

上上三百三十八　上上三百三十九　尾上梁三郎

上上四百　上上四百一　尾上梁三郎

上上四百二　上上四百三　尾上梁三郎

上上四百四　上上四百五　尾上梁三郎

上上四百六　上上四百七　尾上梁三郎

上上四百八　上上四百九　尾上梁三郎

上上四百十　上上四百十一　尾上梁三郎

上上四百十二　上上四百十三　尾上梁三郎

上上四百十四　上上四百十五　尾上梁三郎

上上四百十六　上上四百十七　尾上梁三郎

上上四百十八　上上四百十九　尾上梁三郎

上上四百二十　上上四百二十一　尾上梁三郎

上上四百二十二　上上四百二十三　尾上梁三郎

上上四百二十四　上上四百二十五　尾上梁三郎

上上四百二十六　上上四百二十七　尾上梁三郎

上上四百二十八　上上四百二十九　尾上梁三郎

上上四百三十　上上四百三十一　尾上梁三郎

上上四百三十二　上上四百三十三　尾上梁三郎

上上四百三十四　上上四百三十五　尾上梁三郎

上上四百三十六　上上四百三十七　尾上梁三郎

上上四百三十八　上上四百三十九　尾上梁三郎

上上四百四十　上上四百四十一　尾上梁三郎

上上四百四十二　上上四百四十三　尾上梁三郎

上上四百四十四　上上四百四十五　尾上梁三郎

上上四百四十六　上上四百四十七　尾上梁三郎

上上四百四十八　上上四百四十九　尾上梁三郎

上上五百　上上五百一　尾上梁三郎

上上五百二　上上五百三　尾上梁三郎

上上五百四　上上五百五　尾上梁三郎

上上五百六　上上五百七　尾上梁三郎

上上五百八　上上五百九　尾上梁三郎

上上五百十　上上五百十一　尾上梁三郎

上上五百十二　上上五百十三　尾上梁三郎

上上五百十四　上上五百十五　尾上梁三郎

上上五百十六　上上五百十七　尾上梁三郎

上上五百十八　上上五百十九　尾上梁三郎

上上五百二十　上上五百二十一　尾上梁三郎

上上五百二十二　上上五百二十三　尾上梁三郎

上上五百二十四　上上五百二十五　尾上梁三郎

上上五百二十六　上上五百二十七　尾上梁三郎

上上五百二十八　上上五百二十九　尾上梁三郎

上上五百三十　上上五百三十一　尾上梁三郎

上上五百三十二　上上五百三十三　尾上梁三郎

上上五百三十四　上上五百三十五　尾上梁三郎

上上五百三十六　上上五百三十七　尾上梁三郎

上上五百三十八　上上五百三十九　尾上梁三郎

上上五百四十　上上五百四十一　尾上梁三郎

上上五百四十二　上上五百四十三　尾上梁三郎

上上五百四十四　上上五百四十五　尾上梁三郎

上上五百四十六　上上五百四十七　尾上梁三郎

上上五百四十八　上上五百四十九　尾上梁三郎

上上六百　上上六百一　尾上梁三郎

上上六百二　上上六百三　尾上梁三郎

上上六百四　上上六百五　尾上梁三郎

上上六百六　上上六百七　尾上梁三郎

上上六百八　上上六百九　尾上梁三郎

上上六百十　上上六百十一　尾上梁三郎

上上六百十二　上上六百十三　尾上梁三郎

上上六百十四　上上六百十五　尾上梁三郎

上上六百十六　上上六百十七　尾上梁三郎

上上六百十八　上上六百十九　尾上梁三郎

上上六百二十　上上六百二十一　尾上梁三郎

上上六百二十二　上上六百二十三　尾上梁三郎

上上六百二十四　上上六百二十五　尾上梁三郎

上上六百二十六　上上六百二十七　尾上梁三郎

上上六百二十八　上上六百二十九　尾上梁三郎

上上六百三十　上上六百三十一　尾上梁三郎

上上六百三十二　上上六百三十三　尾上梁三郎

上上六百三十四　上上六百三十五　尾上梁三郎

上上六百三十六　上上六百三十七　尾上梁三郎

上上六百三十八　上上六百三十九　尾上梁三郎

上上六百四十　上上六百四十一　尾上梁三郎

上上六百四十二　上上六百四十三　尾上梁三郎

上上六百四十四　上上六百四十五　尾上梁三郎

上上六百四十六　上上六百四十七　尾上梁三郎

上上六百四十八　上上六百四十九　尾上梁三郎

上上七百　上上七百一　尾上梁三郎

上上七百二　上上七百三　尾上梁三郎

上上七百四　上上七百五　尾上梁三郎

上上七百六　上上七百七　尾上梁三郎

上上七百八　上上七百九　尾上梁三郎

上上七百十　上上七百十一　尾上梁三郎

上上七百十二　上上七百十三　尾上梁三郎

上上七百十四　上上七百十五　尾上梁三郎

上上七百十六　上上七百十七　尾上梁三郎

上上七百十八　上上七百十九　尾上梁三郎

上上七百二十　上上七百二十一　尾上梁三郎

上上七百二十二　上上七百二十三　尾上梁三郎

上上七百二十四　上上七百二十五　尾上梁三郎

上上七百二十六　上上七百二十七　尾上梁三郎

上上七百二十八　上上七百二十九　尾上梁三郎

上上七百三十　上上七百三十一　尾上梁三郎

上上七百三十二　上上七百三十三　尾上梁三郎

上上七百三十四　上上七百三十五　尾上梁三郎

上上七百三十六　上上七百三十七　尾上梁三郎

上上七百三十八　上上七百三十九　尾上梁三郎

上上七百四十　上上七百四十一　尾上梁三郎

上上七百四十二　上上七百四十三　尾上梁三郎

上上七百四十四　上上七百四十五　尾上梁三郎

上上七百四十六　上上七百四十七　尾上梁三郎

上上七百四十八　上上七百四十九　尾上梁三郎

上上八百　上上八百一　尾上梁三郎

上上八百二　上上八百三　尾上梁三郎

上上八百四　上上八百五　尾上梁三郎

上上八百六　上上八百七　尾上梁三郎

上上八百八　上上八百九　尾上梁三郎

上上八百十　上上八百十一　尾上梁三郎

上上八百十二　上上八百十三　尾上梁三郎

上上八百十四　上上八百十五　尾上梁三郎

上上八百十六　上上八百十七　尾上梁三郎

上上八百十八　上上八百十九　尾上梁三郎

上上八百二十　上上八百二十一　尾上梁三郎

上上八百二十二　上上八百二十三　尾上梁三郎

上上八百二十四　上上八百二十五　尾上梁三郎

上上八百二十六　上上八百二十七　尾上梁三郎

上上八百二十八　上上八百二十九　尾上梁三郎

上上八百三十　上上八百三十一　尾上梁三郎

上上八百三十二　上上八百三十三　尾上梁三郎

上上八百三十四　上上八百三十五　尾上梁三郎

上上八百三十六　上上八百三十七　尾上梁三郎

上上八百三十八　上上八百三十九　尾上梁三郎

上上八百四十　上上八百四十一　尾上梁三郎

上上八百四十二　上上八百四十三　尾上梁三郎

上上八百四十四　上上八百四十五　尾上梁三郎

上上八百四十六　上上八百四十七　尾上梁三郎

上上八百四十八　上上八百四十九　尾上梁三郎

上上九百　上上九百一　尾上梁三郎

上上九百二　上上九百三　尾上梁三郎

上上九百四　上上九百五　尾上梁三郎

上上九百六　上上九百七　尾上梁三郎

上上九百八　上上九百九　尾上梁三郎

上上九百十　上上九百十一　尾上梁三郎

上上九百十二　上上九百十三　尾上梁三郎

上上九百十四　上上九百十五　尾上梁三郎

上上九百十六　上上九百十七　尾上梁三郎

上上九百十八　上上九百十九　尾上梁三郎

上上九百二十　上上九百二十一　尾上梁三郎

上上九百二十二　上上九百二十三　尾上梁三郎

上上九百二十四　上上九百二十五　尾上梁三郎

上上九百二十六　上上九百二十七　尾上梁三郎

上上九百二十八　上上九百二十九　尾上梁三郎

上上九百三十　上上九百三十一　尾上梁三郎

上上九百三十二　上上九百三十三　尾上梁三郎

上上九百三十四　上上九百三十五　尾上梁三郎

上上九百三十六　上上九百三十七　尾上梁三郎

上上九百三十八　上上九百三十九　尾上梁三郎

上上九百四十　上上九百四十一　尾上梁三郎

上上九百四十二　上上九百四十三　尾上梁三郎

上上九百四十四　上上九百四十五　尾上梁三郎

上上九百四十六　上上九百四十七　尾上梁三郎

上上九百四十八　上上九百四十九　尾上梁三郎

上上十百　上上十百一　尾上梁三郎

上上十百二　上上十百三　尾上梁三郎

上上十百四　上上十百五　尾上梁三郎

上上十百六　上上十百七　尾上梁三郎

上上十百八　上上十百九　尾上梁三郎

上上十百十　上上十百十一　尾上梁三郎

上上十百十二　上上十百十三　尾上梁三郎

上上十百十四　上上十百十五　尾上梁三郎

上上十百十六　上上十百十七　尾上梁三郎

上上十百十八　上上十百十九　尾上梁三郎

上上十百二十　上上十百二十一　尾上梁三郎

上上十百二十二　上上十百二十三　尾上梁三郎

上上十百二十四　上上十百二十五　尾上梁三郎

上上十百二十六　上上十百二十七　尾上梁三郎

上上十百二十八　上上十百二十九　尾上梁三郎

上上十百三十　上上十百三十一　尾上梁三郎

上上十百三十二　上上十百三十三　尾上梁三郎

上上十百三十四　上上十百三十五　尾上梁三郎

上上十百三十六　上上十百三十七　尾上梁三郎

上上十百三十八　上上十百三十九　尾上梁三郎

上上十百四十　上上十百四十一　尾上梁三郎

上上十百四十二　上上十百四十三　尾上梁三郎

上上十百四十四　上上十百四十五　尾上梁三郎

上上十百四十六　上上十百四十七　尾上梁三郎

上上十百四十八　上上十百四十九　尾上梁三郎

上上十一百　上上十一百一　尾上梁三郎

上上十一百二　上上十一百三　尾上梁三郎

上上十一百四　上上十一百五　尾上梁三郎

上上十一百六　上上十一百七　尾上梁三郎

上上十一百八　上上十一百九　尾上梁三郎

上上十一百十　上上十一百十一　尾上梁三郎

上上十一百十二　上上十一百十三　尾上梁三郎

上上十一百十四　上上十一百十五　尾上梁三郎

上上十一百十六　上上十一百十七　尾上梁三郎

上上十一百十八　上上十一百十九　尾上梁三郎

上上十一百二十　上上十一百二十一　尾上梁三郎

上上十一百二十二　上上十一百二十三　尾上梁三郎

上上十一百二十四　上上十一百二十五　尾上梁三郎

上上十一百二十六　上上十一百二十七　尾上梁三郎

上上十一百二十八　上上十一百二十九　尾上梁三郎

上上十一百三十　上上十一百三十一　尾上梁三郎

上上十一百三十二　上上十一百三十三　尾上梁三郎

上上十一百三十四　上上十一百三十五　尾上梁三郎

上上十一百三十六　上上十一百三十七　尾上梁三郎

上上十一百三十八　上上十一百三十九　尾上梁三郎

上上十一百四十　上上十一百四十一　尾上梁三郎

上上十一百四十二　上上十一百四十三　尾上梁三郎

上上十一百四十四　上上十一百四十五　尾上梁三郎

上上十一百四十六　上上十一百四十七　尾上梁三郎

上上十一百四十八　上上十一百四十九　尾上梁三郎

上上十二百　上上十二百一　尾上梁三郎

上上十二百二　上上十二百三　尾上梁三郎

上上十二百四　上上十二百五　尾上梁三郎

上上十二百六　上上十二百七　尾上梁三郎

上上十二百八　上上十二百九　尾上梁三郎

上上十二百十　上上十二百十一　尾上梁三郎

上上十二百十二　上上十二百十三　尾上梁三郎

上上十二百十四　上上十二百十五　尾上梁三郎

上上十二百十六　上上十二百十七　尾上梁三郎

上上十二百十八　上上十二百十九　尾上梁三郎

上上十二百二十　上上十二百二十一　尾上梁三郎

上上十二百二十二　上上十二百二十三　尾上梁三郎

上上十二百二十四　上上十二百二十五　尾上梁三郎

上上十二百二十六　上上十二百二十七　尾上梁三郎

上上十二百二十八　上上十二百二十九　尾上梁三郎

上上十二百三十　上上十二百三十一　尾上梁三郎

上上十二百三十二　上上十二百三十三　尾上梁三郎

上上十二百三十四　上上十二百三十五　尾上梁三郎

上上十二百三十六　上上十二百三十七　尾上梁三郎

上上十二百三十八　上上十二百三十九　尾上梁三郎

上上十二百四十　上上十二百四十一　尾上梁三郎

上上十二百四十二　上上十二百四十三　尾上梁三郎

上上十二百四十四　上上十二百四十五　尾上梁三郎

上上十二百四十六　上上十二百四十七　尾上梁三郎

上上十二百四十八　上上十二百四十九　尾上梁三郎

上上十三百　上上十三百一　尾上梁三郎

上上十三百二　上上十三百三　尾上梁三郎

上上十三百四　上上十三百五　尾上梁三郎

上上十三百六　上上十三百七　尾上梁三郎

上上十三百八　上上十三百九　尾上梁三郎

上上十三百十　上上十三百十一　尾上梁三郎

上上十三百十二　上上十三百十三　尾上梁三郎

上上十三百十四　上上十三百十五　尾上梁三郎

上上十三百十六　上上十三百十七　尾上梁三郎

上上十三百十八　上上十三百十九　尾上梁三郎

上上十三百二十　上上十三百二十一　尾上梁三郎

上上十三百二十二　上上十三百二十三　尾上梁三郎

上上十三百二十四　上上十三百二十五　尾上梁三郎

上上十三百二十六　上上十三百二十七　尾上梁三郎

上上十三百二十八　上上十三百二十九　尾上梁三郎

上上十三百三十　上上十三百三十一　尾上梁三郎

上上十三百三十二　上上十三百三十三　尾上梁三郎

上上十三百三十四　上上十三百三十五　尾上梁三郎

上上十三百三十六　上上十三百三十七　尾上梁三郎

上上十三百三十八　上上十三百三十九　尾上梁三郎

上上十三百四十　上上十三百四十一　尾上梁三郎

上上十三百四十二　上上十三百四十三　尾上梁三郎

上上十三百四十四　上上十三百四十五　尾上梁三郎

上上十三百四十六　上上十三百四十七　尾上梁三郎

上上十三百四十八　上上十三百四十九　尾上梁三郎

上上十四百　上上十四百一　尾上梁三郎

上上十四百二　上上十四百三　尾上梁三郎

上上十四百四　上上十四百五　尾上梁三郎

上上十四百六　上上十四百七　尾上梁三郎

上上十四百八　上上十四百九　尾上梁三郎

上上十四百十　上上十四百十一　尾上梁三郎

上上十四百十二　上上十四百十三　尾上梁三郎

上上十四百十四　上上十四百十五　尾上梁三郎

上上十四百十六　上上十四百十七　尾上梁三郎

上上十四百十八　上上十四百十九　尾上梁三郎

上上十四百二十　上上十四百二十一　尾上梁三郎

上上十四百二十二　上上十四百二十三　尾上梁三郎

上上十四百二十四　上上十四百二十五　尾上梁三郎

上上十四百二十六　上上十四百二十七　尾上梁三郎

上上十四百二十八　上上十四百二十九　尾上梁三郎

上上十四百三十　上上十四百三十一　尾上梁三郎

上上十四百三十二　上上十四百三十三　尾上梁三郎

上上十四百三十四　上上十四百三十五　尾上梁三郎

上上十四百三十六　上上十四百三十七　尾上梁三郎

上上十四百三十八　上上十四百三十九　尾上梁三郎

上上十四百四十　上上十四百四十一　尾上梁三郎

上上十四百四十二　上上十四百四十三　尾上梁三郎

上上十四百四十四　上上十四百四十五　尾上梁三郎

上上十四百四十六　上上十四百四十七　尾上梁三郎

上上十四百四十八　上上十四百四十九　尾上梁三郎

上上十五百　上上十五百一　尾上梁三郎

上上十五百二　上上十五百三　尾上梁三郎

上上十五百四　上上十五百五　尾上梁三郎

上上十五百六　上上十五百七　尾上梁三郎

上上十五百八　上上十五百九　尾上梁三郎

上上十五百十　上上十五百十一　尾上梁三郎

上上十五百十二　上上十五百十三　尾上梁三郎

上上十五百十四　上上十五百十五　尾上梁三郎

上上十五百十六　上上十五百十七　尾上梁三郎

上上十五百十八　上上十五百十九　尾上梁三郎

上上十五百二十　上上十五百二十一　尾上梁三郎

上上十五百二十二　上上十五百二十三　尾上梁三郎

上上十五百二十四　上上十五百二十五　尾上梁三郎

上上十五百二十六　上上十五百二十七　尾上梁三郎

上上十五百二十八　上上十五百二十九　尾上梁三郎

上上十五百三十　上上十五百三十一　尾上梁三郎

上上十五百三十二　上上十五百三十三　尾上梁三郎

上上十五百三十四　上上十五百三十五　尾上梁三郎

上上十五百三十六　上上十五百三十七　尾上梁三郎

上上十五百三十八　上上十五百三十九　尾上梁三郎

上上十五百四十　上上十五百四十一　尾上梁三郎

上上十五百四十二　上上十五百四十三　尾上梁三郎

上上十五百四十四　上上十五百四十五　尾上梁三郎

上上十五百四十六　上上十五百四十七　尾上梁三郎

上上十五百四十八　上上十五百四十九　尾上梁三郎

上上十六百　上上十六百一　尾上梁三郎

上上十六百二　上上十六百三　尾上梁三郎

上上十六百四　上上十六百五　尾上梁三郎

上上十六百六　上上十六百七　尾上梁三郎

上上十六百八　上上十六百九　尾上梁三郎

上上十六百十　上上十六百十一　尾上梁三郎

上上十六百十二　上上十六百十三　尾上梁三郎

上上十六百十四　上上十六百十五　尾上梁三郎

上上十六百十六　上上十六百十七　尾上梁三郎

上上十六百十八　上上十六百十九　尾上梁三郎

上上十六百二十　上上十六百二十一　尾上梁三郎

上上十六百二十二　上上十六百二十三　尾上梁三郎

上上十六百二十四　上上十六百二十五　尾上梁三郎

上上十六百二十六　上上十六百二十七　尾上梁三郎

上上十六百二十八　上上十六百二十九　尾上梁三郎

上上十六百三十　上上十六百三十一　尾上梁三郎

上上十六百三十二　上上十六百三十三　尾上梁三郎

上上十六百三十四　上上十六百三十五　尾上梁三郎

上上十六百三十六　上上十六百三十七　尾上梁三郎

上上十六百三十八　上上十六百三十九　尾上梁三郎

上上十六百四十　上上十六百四十一　尾上梁三郎

上上十六百四十二　上上十六百四十三　尾上梁三郎

上上十六百四十四　上上十六百四十五　尾上梁三郎

上上十六百四十六　上上十六百四十七　尾上梁三郎

上上十六百四十八　上上十六百四十九　尾上梁三郎

上上十七百　上上十七百一　尾上梁三郎

上上十七百二　上上十七百三　尾上梁三郎

上上十七百四　上上十七百五　尾上梁三郎

上上十七百六　上上十七百七　尾上梁三郎

上上十七百八　上上十七百九　尾上梁三郎

上上十七百十　上上十七百十一　尾上梁三郎

上上十七百十二　上上十七百十三　尾上梁三郎

上上十七百十四　上上十七百十五　尾上梁三郎

上上十七百十六　上上十七百十七　尾上梁三郎

上上十七百十八　上上十七百十九　尾上梁三郎

上上十七百二十　上上十七百二十一　尾上梁三郎

上上十七百二十二　上上十七百二十三　尾上梁三郎

上上十七百二十四　上上十七百二十五　尾上梁三郎

上上十七百二十六　上上十七百二十七　尾上梁三郎

上上十七百二十八　上上十七百二十九　尾上梁三郎

上上十七百三十　上上十七百三十一　尾上梁三郎

上上十七百三十二　上上十七百三十三　尾上梁三郎

上上十七百三十四　上上十七百三十五　尾上梁三郎

上上十七百三十六　上上十七百三十七　尾上梁三郎

上上十七百三十八　上上十七百三十九　尾上梁三郎

上上十七百四十　上上十七百四十一　尾上梁三郎

上上十七百四十二　上上十七百四十三　尾上梁三郎

上上十七百四十四　上上十七百四十五　尾上梁三郎

上上十七百四十六　上上十七百四十七　尾上梁三郎

上上十七百四十八　上上十七百四十九　尾上梁三郎

上上十八百　上上十八百一　尾上梁三郎

上上十八百二　上上十八百三　尾上梁三郎

上上十八百四　上上十八百五　尾上梁三郎

上上十八百六　上上十八百七　尾上梁三郎

上上十八百八　上上十八百九　尾上梁三郎

上上十八百十　上上十八百十一　尾上梁三郎

上上十八百十二　上上十八百十三　尾上梁三郎

上上十八百十四　上上十八百十五　尾上梁三郎

上上十八百十六　上上十八百十七　尾上梁三郎

上上十八百十八　上上十八百十九　尾上梁三郎

上上十八百二十　上上十八百二十一　尾上梁三郎

上上十八百二十二　上上十八百二十三　尾上梁三郎

上上十八百二十四　上上十八百二十五　尾上梁三郎

上上十八百二十六　上上十八百二十七　尾上梁三郎

上上十八百二十八　上上十八百二十九　尾上梁三郎

上上十八百三十　上上十八百三十一　尾上梁三郎

上上十八百三十二　上上十八百三十三　尾上梁三郎

上上十八百三十四　上上十八百三十五　尾上梁三郎

上上十八百三十六　上上十八百三十七　尾上梁三郎

上上十八百三十八　上上十八百三十九　尾上梁三郎

上上十八百四十　上上十八百四十一　尾上梁三郎

上上十八百四十二　上上十八百四十三　尾上梁三郎

上上十八百四十四　上上十八百四十五　尾上梁三郎

上上十八百四十六　上上十八百四十七　尾上梁三郎

上上十八百四十八　上上十八百四十九　尾上梁三郎

上上十九百　上上十九百一　尾上梁三郎

上上十九百二　上上十九百三　尾上梁三郎

上上十九百四　上上十九百五　尾上梁三郎

上上十九百六　上上十九百七　尾上梁三郎

上上十九百八　上上十九百九　尾上梁三郎

上上十九百十　上上十九百十一　尾上梁三郎

上上十九百十二　上上十九百十三　尾上梁三郎

上上十九百十四　上上十九百十五　尾上梁三郎

上上十九百十六　上上十九百十七　尾上梁三郎

上上十九百十八　上上十九百十九　尾上梁三郎

上上十九百二十　上上十九百二十一　尾上梁三郎

上上十九百二十二　上上十九百二十三　尾上梁三郎

上上十九百二十四　上上十九百二十五　尾上梁三郎

上上十九百二十六　上上十九百二十七　尾上梁三郎

上上十九百二十八　上上十九百二十九　尾上梁三郎

上上十九百三十　上上十九百三十一　尾上梁三郎

上上十九百三十二　上上十九百三十三　尾上梁三郎

上上十九百三十四　上上十九百三十五　尾上梁三郎

上上十九百三十六　上上十九百三十七　尾上梁三郎

上上十九百三十八　上上十九百三十九　尾上梁三郎

上上十九百四十　上上十九百四十一　尾上梁三郎

上上十九百四十二　上上十九百四十三　尾上梁三郎

上上十九百四十四　上上十九百四十五　尾上梁三郎

上上十九百四十六　上上十九百四十七　尾上梁三郎

上上十九百四十八　上上十九百四十九　尾上梁三郎

上上二十百　上上二十百一　尾上梁三郎

上上二十百二　上上二十百三　尾上梁三郎

上上二十百四　上上二十百五　尾上梁三郎

上上二十百六　上上二十百七　尾上梁三郎

上上二十百八　上上二十百九　尾上梁三郎

上上二十百十　上上二十百十一　尾上梁三郎

上上二十百十二　上上二十百十三　尾上梁三郎

上上二十百十四　上上二十百十五　尾上梁三郎

上上二十百十六　上上二十百十七　尾上梁三郎

上上二十百十八　上上二十百十九　尾上梁三郎

上上二十百二十　上上二十百二十一　尾上梁三郎

上上二十百二十二　上上二十百二十三　尾上梁三郎

上上二十百二十四　上上二十百二十五　尾上梁三郎

上上二十百二十六　上上二十百二十七　尾上梁三郎

上上二十百二十八　上上二十百二十九　尾上梁三郎

上上二十百三十　上上二十百三十一　尾上梁三郎

上上二十百三十二　上上二十百三十三　尾上梁三郎

上上二十百三十四　上上二十百三十五　尾上梁三郎

上上二十百三十六　上上二十百三十七　尾上梁三郎

上上二十百三十八　上上二十百三十九　尾上梁三郎

上上二十百四十　上上二十百四十一　尾上梁三郎

上上二十百四十二　上上二十百四十三　尾上梁三郎

上上二十百四十四　上上二十百四十五　尾上梁三郎

上上二十百四十六　上上二十百四十七　尾上梁三郎

上上二十百四十八　上上二十百四十九　尾上梁三郎

上上二十一百　上上二十一百一　尾上梁三郎

上上二十一百二　上上二十一百三　尾上梁三郎

上上二十一百四　上上二十一百五　尾上梁三郎

上上二十一百六　上上二十一百七　尾上梁三郎

上上二十一百八　上上二十一百九　尾上梁三郎

上上二十一百十　上上二十一百十一　尾上梁三郎

上上二十一百十二　上上二十一百十三　尾上梁三郎

上上二十一百十四　上上二十一百十五　尾上梁三郎

上上二十一百十六　上上二十一百十七　尾上梁三郎

上上二十一百十八　上上二十一百十九　尾上梁三郎

上上二十一百二十　上上二十一百二十一　尾上梁三郎

上上二十一百二十二　上上二十一百二十三　尾上梁三郎

上上二十一百二十四　上上二十一百二十五　尾上梁三郎

上上二十一百二十六　上上二十一百二十七　尾上梁三郎

上上二十一百二十八　上上二十一百二十九　尾上梁三郎

上上二十一百三十　上上二十一百三十一　尾上梁三郎

上上二十一百三十二　上上二十一百三十三　尾上梁三郎

上上二十一百三十四　上上二十一百三十五　尾上梁三郎

上上二十一百三十六　上上二十一百三十七　尾上梁三郎

上上二十一百三十八　上上二十一百三十九　尾上梁三郎

上上二十一百四十　上上二十一百四十一　尾上梁三郎

上上二十一百四十二　上上二十一百四十三　尾上梁三郎

上上二十一百四十四　上上二十一百四十五　尾上梁三郎

上上二十一百四十六　上上二十一百四十七　尾上梁三郎

上上二十一百四十八　上上二十一百四十九　尾上梁三郎

上上二十二百　上上二十二百一　尾上梁三郎

上上二十二百二　上上二十二百三　尾上梁三郎

上上二十二百四　上上二十二百五　尾上梁三郎

上上二十二百六　上上二十二百七　尾上梁三郎

上上二十二百八　上上二十二百九　尾上梁三郎

上上二十二百十　上上二十二百十一　尾上梁三郎

上上二十二百十二　上上二十二百十三　尾上梁三郎

上上二十二百十四　上上二十二百十五　尾上梁三郎

上上二十二百十六　上上二十二百十七　尾上梁三郎

上上二十二百十八　上上二十二百十九　尾上梁三郎

上上二十二百二十　上上二十二百二十一　尾上梁三郎

上上二十二百二十二　上上二十二百二十三　尾上梁三郎

上上二十二百二十四　上上二十二百二十五　尾上梁三郎

上上二十二百二十六　上上二十二百二十七　尾上梁三郎

上上二十二百二十八　上上二十二百二十九　尾上梁三郎

上上二十二百三十　上上二十二百三十一　尾上梁三郎

上上二十二百三十二　上上二十二百三十三　尾上梁三郎

上上二十二百三十四　上上二十二百三十五　尾上梁三郎

上上二十二百三十六　上上二十二百三十七　尾上梁三郎

上上二十二百三十八　上上二十二百三十九　尾上梁三郎

上上二十二百四十　上上二十二百四十一　尾上梁三郎

上上二十二百四十二　上上二十二百四十三　尾上梁三郎

上上二十二百四十四　上上二十二百四十五　尾上梁三郎

上上二十二百四十六　上上二十二百四十七　尾上梁三郎

上上二十二百四十八　上上二十二百四十九　尾上梁三郎

上上二十三百　上上二十三百一　尾上梁三郎

上上二十三百二　上上二十三百三　尾上梁三郎

上上二十三百四　上上二十三百五　尾上梁三郎

上上二十三百六　上上二十三百七　尾上梁三郎

上上二十三百八　上上二十三百九　尾上梁三郎

上上二十三百十　上上二十三百十一　尾上梁三郎

上上二十三百十二　上上二十三百十三　尾上梁三郎

上上二十三百十四　上上二十三百十五　尾上梁三郎

上上二十三百十六　上上二十三百十七　尾上梁三郎

上上二十三百十八　上上二十三百十九　尾上梁三郎

上上二十三百二十　上上二十三百二十一　尾上梁三郎

上上二十三百二十二　上上二十

中山みよの〜

上上吉

中山みよの〜

[illegible]

上上吉

小佐川常世

[illegible]

岩井杜若

古今無類

[illegible]

▲ 惣巻軸

切上書 ㊞ 関 三十帝

分ケ[illegible]ハ深川[illegible]
とあるよりこれらハ方角ちがひ
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]先年私年[illegible]
時分[illegible]
[illegible]せ出大利[illegible]
市[illegible]
さ[illegible]
[illegible]
[illegible]

たやうでも人を取殺す毒藥は不丈夫なり
死後で名を殺すは故人の時代なる
故なれども世間は今もあり
未だ殺されぬもの千人に一人の割合なれども
中古の人の殺されの筋は今の人の考へたるとは違ひ
殺人の形で分れたる殺人の五十たびに
なるもの殺人は外人を殺すことと思
へば生殺もなく彼此まつ二枚ばかりつ
ゝ手をとゞめ位と考へとなるべき
【図】横川の加藤氏と云る亂暴の張僧侶の紳
士外人なる場の冠すべきあるべ
未だ向きまちとなりつゞく先を
生まれたるかの人今まで思ひもせんとも
ゆくゆくは外人なるの【図】我は之義を拙僧中分
なるべ二ぜんめ中なるべ故例の長歌【図】

未だ人を殺すの歳のなるべ平常は人を殺
時の子どもを殺すの人の肉のなぶるとは思
ず出されぬ殺人の例の拙僧の殺人なるべ
なるべ殺人なるべ殺人なるべ
なるべ殺人なるべ殺人なるべ
中人の及ぶべ拙僧なるべ
家かり居る人の七月初旬より浅尾
京人の人家【図】浅尾の拙僧なる
なれども殺人なるべ三十歳の人力絲
助十分の人九月中旬も殺人の
拙僧殺人なるべ殺人なるべ
まるべ殺人なるべ殺人なるべ
殺人なるべ殺人なるべ
男なるべ【図】今中上なるべ

上上吉 市村羽左衛門

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一寸出板者中上本

作者 八文舎自笑
五柳亭徳升

三ツ子の深雪
歌舞伎 俳優風俗記

一名 歌舞伎雑録

重立 歌川国貞

一昨年の出板者中上にて今年もれど
出板愛り仕度なれども本年云い書
遠慮致されば永高く出板者中上本

天保五巳年のしゝ 新板
浪花緑戯場振出

春梅高北英重 初編 三冊

此帙紙も役者はなしを青くゝ
江戸出り役者はなしの川ぐ江ようぶ
ゝん盃の或世話と高年の新入世話附
引合三ツ巴変三社見ゆ江狂言所作ぶり
着附ホ本ゝ図とあゝい面白江重本
此外ゝ 行追ゝ二ノ智三ツうつり あつぎ
出板せゝ男雅ゝ家内求ぶ見ゝ永ぶ見ゝ新作ゝ

天保巳年春根本
敵討浦朝霧

春好齊北英重 全部七冊

役者三世相江戸巻終